

同窓会報



モニュメント



グリーンプロムナード



グリーンプラザ

愛媛大学法文学部同窓会事務局

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.089-917-6376 fax.089-917-6476 E-mail: aidai-houbun-dosokai@sings.jp
[PCサイト] <http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/> [モバイル(携帯)サイト] <http://www.just.st/?in=308906>

愛媛大学の学部再編について、 西村法文学部長・ 菅原法文学部事務課長に聞きました



西村勝志法文学部長

1995年愛媛大学法文学部へ赴任。総合政策系学部長を経て今年度、法文学部長に就任。

菅原康弘事務課長

1976年愛媛大学工学部に就職。総務部経営企画課長を経て今年度、法文学部事務課長に就任。

インタビュー：後藤珠希
総合政策学科卒(平成18年)

Q：この度の学部再編や新学部について教えてください。

学部長：地域活性化の中核的拠点を目指す選択をした愛媛大学は、地域に根ざした大学としてその存在感を発揮することが大きな使命となります。そして、地域を



西村勝志学部長

牽引する人材を育成する「社会共創学部」（4ページ参照）を新設します。一方で地域と両輪の関係にあるグローバルをキーワードに、グローバル人

材の育成を新法文学部が担う形での学部再編となります。新学部に対しては予算も少なく、人材と施設設備を既存学部から調達することになります。教員は56名で、法文学部からは教員19名が移ります。

事務課長：社会共創学部の特徴が“文理融合型教育”ですので、各学部の様々な分野の教員が集まってきます。現場で学び現場をキャンパスとするフィールドワークが充実するなど、地域とのかかわりを重視するカリキュラムとなっています。

Q：新法文学部の特色を教えてください。

学部長：まず、1学部2学科9コースから1学部1学科3コースへと学部再編され、学生定員が減ります（5

ページ参照）。1年を4期に分けるクォーター制の導入や、他学部科目を時間割等に配慮して開講するなど、様々な特色を打ち出しています。学部学科にしばられることなく、限られた教育上の人的資源を有効活用し、より自由度の高い授業が受けられるようにします。また、指導教員も2人体制にすることで、学生にとってセカンドオピニオンが聞けるわけです。

事務課長：できるだけ分野やコースが違ふ教員2名が担当するよう考えています。例えば、人文学と社会科学の先生という組み合わせが可能になります。就職活動



菅原康弘事務課長

においても違った側面からのアドバイスができます。人文学科が人文学に特化したというような今までの教育ではなく、社会科学などの他の分野の要素を取り入れて融合的に幅広く学びます。企業も幅広い知識を求めているので、従来の専門性だけではなかなか難しいです。

学部長：新法文学部は1学科なので、学生も幅広く学んだ上で進むべき道を決めることができます。入学時にはまだコースが決まっていないので1年間でじっくり考え、指導教員との面談の上で決定していきます。コース定員にも2割の幅を持たせるので、ミスマッチになるリスクはほぼ回避されます。

Q：就職については何か変化はありますか？

学部長：進路先は大きくは変わらないと思います。グローバル人材の育成ということで、外資系に行く数が増えたりする変化がみられるかもしれません。

事務課長：法学・政策学履修コースについては、公務員になりたい学生に向けての講座を強化したいと考えているので、公務員が増える可能性もあります。

学部長：現在は総合政策学科で約50名が公務員になっていますが、法学・政策学コースだけで60数名になれば、同コース定員の半分となるので、より特色が打ち出せます。

事務課長：グローバル・スタディーズ履修コースについても、できれば全員を海外に行かせたい。色々な事情があるので、叶わない場合は、例えば愛媛大学の留学生とのコミュニケーションを強化したりと考えています。

Q：新法文学部に同窓会が貢献できることはありますか？

学部長：同窓会の会員を増やし、新しい人的ネットワークをどう構築して、組織づくりをしていくのか、そのようなことが新法文学部では重要な要素になります。これまで以上に海外に行く卒業生が出てくる可能性が高くなる中で、そうした人達とのネットワークをどう構築していけるのか課題もありますが、海外活動への支援や提供講座などで貢献していただきたいし、これまで蓄積された同窓会のノウハウを、新学部には是非とも教えていただきたいと思っています。

事務課長：この度、同窓会をはじめ現役学生や保護者の方の“名前が変わらないで欲しい”という思いが後押しとなり、「法文学部」の名称が残りました。大変嬉しく思います。これからも法文学部を支えていただきたいと思います。



後藤珠希

ありがとうございました。

目次



法文学部同窓会報
第19号

学部長・事務課長インタビュー	2
総会案内	3
社会共創学部を新設	4
法文学部の改編	5
研究室紹介（総政・長井先生）	6
（人文・中根先生）	7
EHI ME UNIVERSITY NEWS	8、24
Photograph around Campus	8
退職された教員の方々	9
ホームカミングデイ	11
提供講座・寄付科目 報告	12
四国遍路をめぐる最新の研究から	14

就活のライバル	
－夏目漱石と重見周吉	18
理事会報告	22
法文学部人事異動/放送大学企画展	23
卒業生から	26
平成26年度卒業記念祝賀会	28
支部だより	30
パズル・編集後記	32

題字：柴田 祐昭
(文理学部人文学科史学専攻・第8回卒)
[明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・
県展審査員・毎日書道展審査員]

第14回 法文学部同窓会 総会ご案内

日時：2015(平成27)年11月28日(土)
15:00～ 四国支部総会
15:30～ 本部総会(支部活動報告)・講演
17:00～ 懇親会

会場：総会 愛媛大学法文学部大会議室(法文学部本館8F)
懇親会 愛媛大学生協食堂2F(松山市文京町3)

内容：3年間の活動のまとめ・支部活動報告・役員改選・次期活動方針など

会費：3,000円(懇親会)※当日ご持参ください。

※総会のみ、懇親会のみでも構いません。同封のハガキにて事前にお申込みください。



連絡先：
法文学部同窓会事務局 鳥生 勉 歳
Tel. 090-4506-1684 E-mail: ytoriu@yahoo.co.jp

3年に1度の総会を開催します。

社会共創学部を新設

地域の持続的な発展に貢献する人材育成を目指します。

4つの改革

1

地域に特化した新学部「社会共創学部」を設置

2

法文学部は1学科3コースに

3

教育学部の新課程を廃止し、教員養成に特化

4

農学部は「食料」「生命」「環境」の3学科に

1「社会共創学部」(定員180)を新設

君を創る学び、君達がつなぐ社会

教育理念

様々な地域社会の持続可能な発展のために、地域の人達と協働しながら、課題解決を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力を備えた人材を育成します。

学部の特徴

●多彩な教員による教育

多様な専門分野の教員を法文学部、教育学部、理学部、工学部、農学部、医学部から選抜し配置することにより、学部の教育理念に沿った教育を実現します。

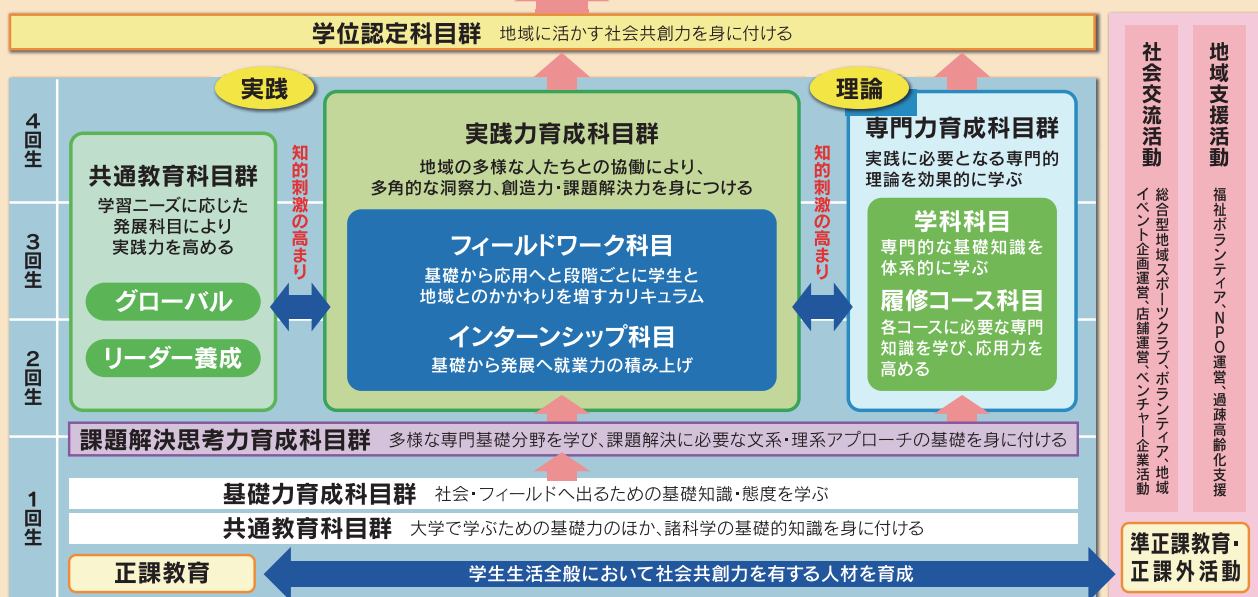
●フィールドワーク等の実践教育を実施

様々な専門分野の教員が、フィールドワークなど実習科目を核とした文系・理系の多様な科目から成るカリキュラムを設け、学生・地域の人々・教員とが一体となった実践教育を実施します。

カリキュラム概要

「フィールドワーク」、「インターンシップ」を核とした実践力育成と、英語力育成・リーダーシップ育成など、多様な学びの機会を提供します。

地域の人々と協働し課題解決へ導く人材を育成

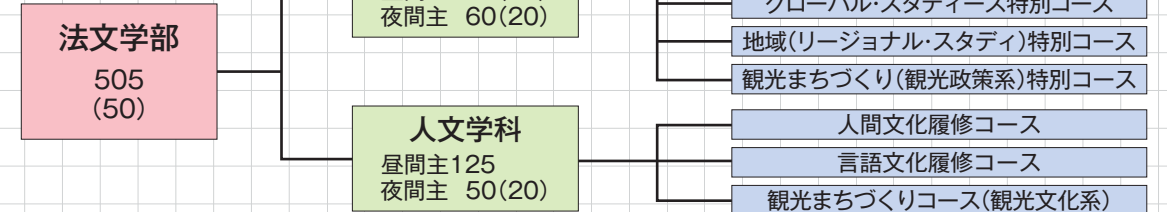


想定される進路

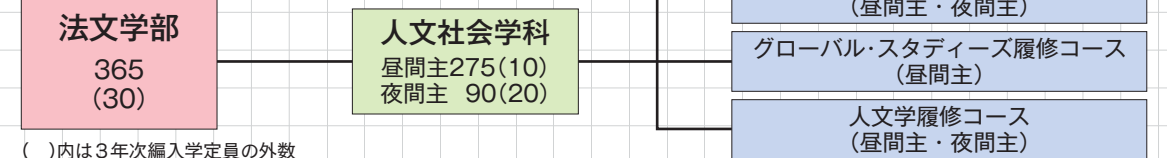
- 民間企業（製造・販売・流通・情報通信・金融・観光・マスコミ・ティベロツパー・コンサルタントなど）
- 公務員（国家公務員、地方公務員、国際機関の職員など）
- 団体職員（社団法人、財団法人、社会福祉法人、NPO、NGO、病院、JA、漁協など）
- 研究機関
- 自営・起業・社内ベンチャー
- 進学（大学院や専門教育機関への進学、海外留学など）
- その他（税理士、公認会計士、中小企業診断士など）

法文学部の改編

(現)法文学部



(新)法文学部



()内は3年次編入学定員の外数

履修コース

学生の興味関心や将来像に沿って必要な専門科目を履修でき、かつ、卒業後の進路を意識した履修コースを設定

- ・1年次は、共通教育及び人文社会諸科学の基礎科目を幅広く履修
- ・2年次からは、学生の希望に応じた履修コース選択により、専門科目を履修
- 法学・政策学履修コース
- ・社会共創学部産業マネジメント学科との連携・協力により、社会科学の全領域をほぼカバーする多彩な授業科目を提供。社会科学の知を探究する。
- ・卒業後の進路を見据えた履修モデルを提示。
- グローバル・スタディーズ履修コース
- ・外国語運用能力、異文化理解力、交渉力・協働能力等の強化を図るとともに、専門知に基礎づけられた、グローバル人材に求められるコミュニケーション能力と汎用的能力を育成する。
- ・海外体験率100%、TOEIC700点以上を目標とする。
- 人文学履修コース
- ・学生の興味関心に基づいた幅広い学びと深い専門的学びによって、**人文学**の知を探究。高度な教養と汎用的能力を育成。

課題

性格の異なる2つの教育研究組織がそれぞれ独自色の強いカリキュラムを提供する現行の2学科体制では、今日のグローバル化社会において提起される複雑多岐にわたる諸問題に対応するのに必要な「(人文学及び社会科学の枠を超えた)実践知の育成」を図ることが非常に困難である。

- ・2学科制を廃止
- ・人文社会諸科学を幅広く履修できるプログラムを設定

特色

- ①卒業後の進路を意識した履修コースを設定（2年次以降）
学生は、入学後1年間人文社会諸科学の様々な学問分野の基礎的なものの見方・考え方に触れた上で、様々な分野の専門科目を幅広く学ぶことができる。
- ②学生の主体性を尊重し、自由度の高いカリキュラムを設計
自分自身の興味関心及び将来像に従って履修コースを選択し、指導教員のアドバイスを受けながら、自由に柔軟にカリキュラムを設計し、履修することができる。
- ③学修ポートフォリオを活用して学修を自己管理
学修ポートフォリオを活用して、学生の主体的な学びを自己管理させるとともに、教員がその学びをサポートする。
- ④学生同士の学びを充実、教員による手厚いサポート
徹底した少人数教育によって、専門性を高め、知的能力を鍛えることができる。

複数指導教員制を採用して、学生の研究テーマに即して人文学・社会科学の枠を超えた学際的研究指導を可能にする。

⑤実践科目を通じて、多角的な見方及び**実践知**を涵養
アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を積極的に設定することによって、学生の能動的かつ主体的な学修態度を引き出すとともに、社会の現場で学ぶ授業を通して、実践知を涵養する。

⑥体系的な英語運用能力育成科目を提供
英語基礎力強化科目、コミュニケーション能力養成科目、習熟度別英語資格試験（TOEIC）対策科目、留学準備英語科目など、学生の様々なニーズに柔軟に対応できる英語運用能力育成科目を体系的に提供する。これにより、学生のモチベーションを引き出し、学生が主体的に学ぶことで、段階的に英語運用能力が向上する。

研究室紹介

総合政策学科

よりとし 長井偉訓教授

企業システムコース

平成4年から、愛媛大学で教鞭をとられている長井先生。

授業では現代日本における諸問題、主に労働・生活問題を中心に、日本企業の入社システムやスキル形成などの人事労務管理について教えられています。

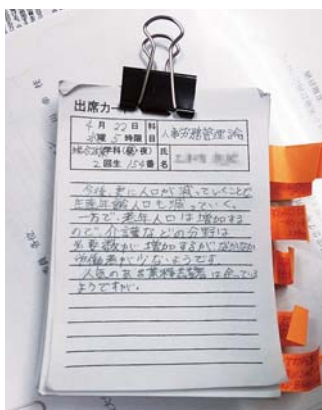
あと2年で退職される……という最近になって、授業が楽しくなってきたとおっしゃっています。

自分の研究テーマばかりを元に教育するわけにはいかない。あまり関心がない分野も教えなくてはならない。そのため、授業は楽しいばかりではなかったのですが、今は教育と研究がうまく調節できるようになり、授業が楽しくなったのだとか。あと2年で退職してしまうのが残念だそうです。

大変穏やかでお優しい印象の長井先生ですが、授業では「私語は絶対に許さない」と少し厳しい面も。それは、学生とのコミュニケーションを重視しているからで、学生の方も素直に聞いてくれるそうです。毎回配る出席カードは授業の感想を書く仕様になっており、学生達がどこまで授業を理解したかがそれで分かるそうです。また、質問が書かれてあれば、次の授業で答えるなど、コミュニケーションに大変役立っています。

長井先生はたいへん多趣味な方でもあります。

まずは釣り。お父様の影響で若いころから釣りが大好きだそうで、静岡にいたころは浜名湖でよく釣られたそうです。こちらでは同じく釣りが趣味の井藤先生と足摺岬へ行って、早朝から夕方までずっと釣っていることもあったとか。以前はグレを餌で釣っていましたが、今はルアーにはまっているそうです。



←出席カード

第3弾は、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、取材してきました。



←皿ヶ嶺ライブコンサートにて

さらに山登りもされます。皿ヶ嶺によく登って、鳥の鳴き声を聞くと落ち着くのだそうです。なんと長井先生はギターも弾かれるそうで、山小屋で開かれる皿ヶ嶺ライブコンサートでは、宇和川先生とご一緒に出演されるのだそう。

愛大には羽月先生というシンガーソングライターもおられるので、触発されてマーチンのギターを購入し、羽月先生、宇和川先生と3人でライブをしたり、大学生協主催の盆踊り大会でもミニライブをされたりと、活躍されています。このマーチンのギターは東京に代理店があるので、上京するたびに購入し、ついに8本になって奥様に怒られたそうです。マーチン病ですね……。

今は「OWL」というライブハウスで時々ライブをされるのですが、自宅で練習をしていると家族から「うるさい」と不満が出るので、防音ルームを作ろうと見積もりをとったら、200万円もかかるんだとか！ そのため今はなかなか練習ができないのが悩みだそうです。

最近は朝食づくりにも凝っているそうで、毎朝ジュース（人参、りんご、バナナ、ヨーグルト、牛乳、アーモンド粉末!）、野菜サラダ、ピザトーストをご自分で作っておられます！ 素晴らしい。栄養満点です。

通勤は、北久米のご自宅から電車で立花駅まで行き、そこから大学まで歩いて通われています。立花から文京町まで徒歩です。健脚ですね！

いろいろなことに興味をもたれ、行動している長井先生は、学生の人気が高いのも頷ける素敵先生でした。



←2014年度ゼミ生卒業写真

人文学科

中根隆行教授

日本近現代文学・比較文化

Q 愛媛大学にいらっしゃったのはいつですか？

A 2005年に着任してからもう10年になります。三重県出身で、早稲田大学を卒業後、筑波大学大学院に進みました。博士課程修了後は、韓国の教員大学校やHANBAT大学校で日本語や日本文化を教えていました。

Q 韓国での生活は？

A 最初の大学では、高校教師に日本語の教員免許をとらせる特別な課程でしたので、大学生ではなく、韓国の高校でドイツ語やフランス語を教えている現役教師の方々に日本語を教えていました。私よりも年上の方が大勢いて、大学近くの小さな売店兼飲み屋の店でその「学生たち」に会うと、よくお酒を飲んでいました。地方都市の郊外で大学の周辺には店は数軒しかなかったですから。次第に仲良くなり、週末には家に呼ばれたり、クラス単位でどこかに行ったりと、楽しかったですね。韓国人は一度殻を破ったらとても親しい間柄になるので、日本語を教えながらも、実際は韓国のことについて学んでいたという感じでした。

Q 日韓文化比較論の研究もされていますね。違うところは？

A 昔話を例に話をすれば、日本では「昔々あるところに」ですが、韓国では「昔々虎が煙草を吸っていた頃」と始まります。こうした事例は世界中にあり、さまざまなヴァージョンがあります。日本と韓国を比べると、この場合、日本はきわめてニュートラルな表現、韓国は非常に具体的な表現から物語を語り始めるという文化的差異は面白いと思います。また、「勉強する」ことを韓国では「工夫する」と表現します。同じ漢字文化圏であるのに、学ぶという行為に対して使われる熟語が異なっています。勉強すること自体に関しても日韓でとらえ方に違いがあるのかもしれませんが。

Q ゼミの学生や授業の様子は？

A 私のゼミに来る学生は、真面目というよりはユニークですね。小説を読んだり書いたりすることが好きな学生もいて、たまに創作小説を読んでもくださいと言われると正直嬉しいですし、大学院に進学する学生もチラホラと出てきました。文学作品を読むという行為は、基本的には他者を考えるということに繋がりますし、他者の思考に触れるということは、つまりは私とは何かを考えることに行き着きます。まあ、陳腐な言い方にはなりますが、こうして自分の殻を破るという経験をみんなで共有する楽しさもあります。

Q 今後の研究や取り組んでみたいことは？

A 文学作品の読まれ方といえば、文学研究としてはまず発表された同時代の読者のことを考える傾向にあるのですが、他方で私たちはそれを現在において読んでいます。



←高麗大学校大学院で授業を受け持っていた院生たちと（2011年在外研究にて）

つまり、いま読み、かつてのことを考えている。それを、もう一度現在に戻してみたいですね。近代文学を通して現代社会を考えるといったことです。また他には、朝鮮俳句の研究も進めています。戦後における日本と韓国の俳人による文化交流は、実は愛媛から始まっています。そうした、これまであまり語られてこなかった文化史を紐解くことにも関心があります。

Q 休日の過ごし方は？

A 凡庸ではありますが、映画を観たり本を読んだりしていることが多いですね。映画はインディーズ系が好きです。手法も定まっておらず、作り手の思惑も多彩ですし面白いので。内容も、自分の期待した範囲内に収まるものより、期待を裏切る展開や結末に驚かされるほうが結果的に満足します。あとは、趣味とは言えませんが、書庫探訪です。職業柄、図書館や資料館に行くことが多いのですが、目当ての資料だけでなく、書庫そのものと言いますか、古い書籍の匂いがするあの独特の雰囲気の中にと、不思議と落ち着きます。

Q 最近読んで面白かった本は？

A 奥泉光さんの『東京自叙伝』が面白かったです。主人公が題名通り東京の地霊なんです。その東京さんが、小動物などとともに人間にも憑依するという設定の第一人称多元小説です。ピカレスクロマンですが、近代史を辿りつつ展開する物語も興味深いものでした。

Q 卒業生にメッセージを。

A 社会に出ると、大学の頃よりも自由度が低く、自分が期待した通りに事が運ばないと感じるものです。それはある意味で当然だし、その都度悩んでどうするかを決断すればいい。ただ本当にどうしようもないときのために、普段から自分の時間を自分で作る技術は身につけておいたほうがいいと思います。そうして得られる時間あるいは精神的な余裕は本当に貴重ですから。その上で、そんな時間を日常生活のなかで作って、たとえば小説を読んだり、大学時代を思い出したり、研究室に足を運んでくれたりすると、とても嬉しいです。



←2013年度追出しコンパ

「第5回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催しました

2014.11.8(土)

平成26年11月8日(土)、城北キャンパスで「第5回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催し、卒業生、本学学生及び教職員合わせて約280人が参加しました。

ホームカミングデイは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々と大学にお招きし、大学の教育・研究等の現状などを紹介するとともに、在学生や教職員と交流いただき、また、大学の施設見学等や同日に行われた学生祭にも参加いただくなどして、母校への理解を深めていただくことを目的としています。

当日は、愛媛大学ミュージアムや農学部樽味キャンパスの植物工場の見学、在学生と本学職員との交流イベント等の同時開催イベントを実施し、多くの方にご参加いただきました。

式典では、学歌斉唱の後、柳澤康信学長による本学の近況報告と挨拶が



柳澤学長挨拶

村上教授による特別講演

あり、続いて、東アジア古代鉄文化研究センター長の村上恭通教授による「鉄と塩と文化の海廊・瀬戸内海今昔物語」と題した特別講演を行いました。

また、連合農学研究科修士で校友会ネパール支部長をされているYogesh Hari Shrestha(ヨゲシュ・ハリ・シェレスタ)さんによる卒業生挨拶、ダンス部による元気いっぱいの演技披露が行われました。

式典後、大学会館で行われた大学関係者と卒業生との懇親会では、歌手のえひめ憲一さん(農学部OB)による演歌披露が行われました。また、本学と連携協定を締結している愛南町から特産品をPRする屋台の出展があり、新鮮な海産物を振舞っていただいたほか、特産の「ブリ」「鯛」が当たる抽選会を行い、大いに盛り上がりしました。

今回の懇親会でも、県内外から多くの本学関係者が参加し、改めて親睦を深めることができました。



学歌斉唱(合唱団)



Yogesh Hari Shresthaさんによる卒業生挨拶

Message from Professor

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学にいられた年
- ② 所属の学部学科
- ③ 研究・専門について



西村隆誉志先生

- ① 昭和63(1988)年
- ② 法文学部法学科・総合政策学科
- ③ 西洋法史学・比較法

出生 昭和24(1949)年
出身大学 早稲田大学法学部(1973年卒業)
最終学歴 早稲田大学大学院法学研究科博士課程後期(1984年単位修得退学)
学位・称号 博士(法学)
所属学会 法制史学会、比較法学会、日本法社会学会、民主主義科学者協会法律部会、史学会、西洋中世学会

故郷近江の里では、早朝小鳥のさえずりの声がやかましいほど静かに時間が流れています。ふるさとを離れ、東京で18年、縁あって愛媛大学に赴任し法文学部にお世話になって28年になり、今も住んでおりますので、松山は第二のふるさです。

愛媛大学では西洋法史学を担当してきました。研究が進むにつれて授業は近代ヨーロッパ法史、日本近代法史に重点をシフトしていき、ゼミのテーマも変わっていきましたが、着任当初のころの学生の皆さんにはローマ法の詳細を伝えたりして、時間切れで迷惑をかけたかもしれません。

在職時、学部本館7階から総合研究棟Ⅱ4階に研究室を移すという経験をしました。先輩諸先生には図書館から本館へ、さらに総合研究棟へと引っ越さざるをえなかった方がたもおられました、のち旧教養部の建物から本館などへ研究室を移す必要のあった先生方もおられました。これはいずれも大学の改革、学部・学科の改編にともなうことであり、大学をとりまく環境がほぼ30年間に大きく変わったことを意味しているのだと思います。

法文学部同窓会にはわたしが法文学部長を務めておりました折、東京での第45回という節目の東京章光会総会でご挨拶させていただきましたし、法文学部講義棟の正面に同窓会50周年記念の大時計が設置されていますが、その贈呈除幕式に学部長として列席させていただいたことを思い起こします。同窓会には55周年を迎えられ、今後ますますの発展を祈念いたします。



戸澤健次先生

- ① 昭和53(1978)年
- ② 法文学部総合政策学科
- ③ 比較政治論

出生 昭和24(1949)年
出身大学 京都大学法学部(1974年3月卒)
最終学歴 京都大学大学院法学研究科博士課程(1978年退学)
学位・称号 法学修士
所属学会 日本政治学会、日本比較政治学会、政治思想学会、アメリカ学会、Organization of American Historians、Southern Historical Association

昭和53年4月に採用された時、四国について何も知らなかった私ですが、早くも定年退職で、研究者として37年間、松山で過ごしたことになります。その間、アメリカのコロンビア大学に1年半、サウス・カロライナ大学に半年、そしてイギリスのロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)に1年、さらに、サバティカルでLSEに半年、その後トルコのチャナッカレ大学、インドのネルー大学、台湾の政治大学で半年研修させていただきました。恵まれた研究者生活だったと感謝しています。

アメリカでは、急速に進む近代資本主義と大衆民主主義とは異なる方向の政治思想を説いたJohn C. Calhounの政治思想の研究に着手しました。カルフーンに関する論文を何本か書きましたが、研究は不十分と感じています。

イギリスでは、LSEのSTICERD(サントリーとトヨタが出資した研究所)で研究し、極東外交史の権威であるIan Nish教授に1年間手ほどきを受けました。隣室の森嶋通夫先生とイギリス保守主義の解釈をめぐる激論を交わしたことも今は楽しい思い出です。

1990年代以後、私はインドに学生を引き連れていって交流を重ね、またインド人学生を受け入れて学位を取得させました。そうした努力が今年度愛媛大学とネルー大学との学術交流協定として結実したことは喜ばしいことと実感します。

また、民間の友好促進のため、NPO日印友好協会を立ち上げ、その事務局長を引き受け、様々なイベントに参加してきました。

退職で一区切りができますが、やり残したことが多々ありますので、これで終わりという気は全くしていません。今後も蝸牛のごとく営々と努力を重ねたいと願っています。

Photograph around Campus 生協ショップリニューアル!!



統合されたキャッシュコーナー



書籍コーナーも充実



広々として明るい店内



アクアカフェ



アクアカフェ横の睡蓮



カキツバタと講義棟

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学にいられた年
- ② 所属の学部学科
- ③ 研究・専門について



安藤秀國先生

- ① 昭和53(1978)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ ドイツ文学・文化

出 生 昭和24(1949)年
出身大学 九州大学文学部（1972年3月卒）
最終学歴 九州大学大学院文学研究科博士課程（1975年退学）
学位・称号 文学修士
所属学会 日本独文学会、日本比較文学会、日本ワーグナー協会

1978年に愛媛大学に赴任してから、37年を松山で過ごしたことになります。着任時の研究室は中央図書館の3階にあり、まだ冷房の設置されていない時代でしたので、夕方になると西日を受けてとても暑い部屋でした。その後、現在の法文学部本館が建って、施設面でも随分と整備されてきました。

在職中の大きな教育成果は、多数の学生達がドイツへ行くようになったことでしょうか。外国語や外国文化の学習には、やはり現地で体験を積むのが一番ですが、以前は、航空運賃が高いだけではなく、学生の意識の上でも遠い外国への留学を目差すことがなかなか難しい状況でした。

こうしたことから、2004年にドイツ文化研修（2009年度から授業科目「海外文化交流実践」）を始めました。教員の引率のもと学生達は、2週間程ドイツの数都市を自由に歩き、各自設定した課題について、可能な範囲で調査を行うという試みです。

事前に数ヶ月をかけて訪問先などについてもしっかりと下調べをしておきますので、さほど大きな混乱なく、貴重な異文化体験を得ることができました。2005年に学術交流協定を結んだフライブルク大学での研修も組み込んでいます。引率型の文化研修と並行して、個人としてフライブルク大学の4週間の夏期語学講習会へ参加したり、1年間の長期留学に挑戦したりする学生が継続的に出て来ているのも嬉しいことです。

定年後も愛媛日独協会に関わっています。毎年7月には公開講演会を行っておりますので、ドイツに関心のある卒業生の皆さんもぜひ足をお運び下さい。愛媛大学も大きな制度改革の波に洗われている折りですが、法文学部同窓会の益々の発展を祈っております。



藤田勝久先生

- ① 昭和60(1985)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 中国古代史・『史記』研究

出 生 昭和25(1950)年
出身大学 京都府立大学文学部（1978年3月卒）
最終学歴 大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程（1985年単位修得退学）
学位・称号 博士（文学）
所属学会 史学会、東方学会、中国出土資料学会、日本秦漢史学会

愛媛大学法文学部には30年ほど勤務し、アジア史の講義を担当しておりました。大学の講義で心がけていたのは、将来に研究者や教職をめざす専門教育だけではなく、一般社会に出て行く学生たちに、どのような教育をするかということです。中国と東アジアの歴史は、外国を対象としていますから、いくつかの目標を設定してみました。

一つは、世界の中で日本を位置づける視点を養うことです。世界の人々は異なる文化と価値観をもっており、どのように共存するかということも大切です。中国の歴史はその一つですが、日本文化の形成に影響しており、その関係は今日にいたっています。ですから歴史と文化を学ぶことは、学生が社会人になって、海外でのビジネス、旅行に行くとき、日本で外国の人たちと接する生活に役立つのではないかと思います。

二つ目は、歴史を自分で体験することです。法文学部では、昨年9月に復旦大学文物・博物館学部と学術協定を結びました。これは愛媛大学の院生・学生が中国の博物館や遺跡で歴史を体験し、復旦大学からも日本の遺跡・博物館で研修するという相互交流を目指しています。歴史学は、資料にもとづく学問ですが、身のまわりの体験を通して社会を理解する方法も貴重な財産です。

退職後は、松山で国際交流の手助けをし、中国史の一般書などを通じて、社会に貢献したいと希望しています。



宇和川耕一先生

- ① 昭和54(1979)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 表現文化論

出 生 昭和24(1949)年
出身大学 愛媛大学法文学部（1973年3月卒）
最終学歴 東北大学大学院文学研究科博士課程前期課程（1976年3月修了）
学位・称号 文学修士
所属学会 表象文化論学会、日本ポピュラー音楽学会、日本独文学会



若江賢三先生

- ① 昭和55(1980)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ アジア史

出 生 昭和24(1949)年
出身大学 愛媛大学法文学部（1972年3月卒）
最終学歴 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科（1980年3月退学）
学位・称号 文学修士
所属学会 史学会、東洋史研究会、日本秦漢史学会、法制史学会、社会文化史学会、日本印度学仏教学会

第6回 愛媛大学ホームカミングデー 開催のお知らせ

日 時：平成27年 **11月14日(土)** 13:00～

参加料無料
要事前申込

13:00 ～ 同時開催イベント（愛大ミュージアム見学、植物工場見学など）

15:00 ～ 式 典（南加記念ホール）

特別講演：「四国遍路を楽しむーチャレンジ1,400kmー」

講演者：寺内 浩 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター長

17:00 ～ 懇親会（大学会館 1 階）

◎節目の卒業生に当日愛大ショップえみかで購入できる商品券（1,500円）をプレゼント。

卒後10年目から5年ごとの節目の卒業生

昭和31年卒、36年卒、41年卒、46年卒、51年卒、56年卒、61年卒、平成3年卒、8年卒、13年卒、18年卒

※詳細・申込方法等は愛媛大学校友会HP（<http://koyu.ehime-u.jp/>）をご確認ください。

ミ二同窓会の開催を応援します！

※当日、学部・学科・サークル等ミ二同窓会（10人以上）の開催を応援します。（参加者1人あたり2,000円を上限に援助。全体上限60,000円）

申請期間：平成27年10月1日（木）～10月30日（金）

◎卒業生ならどなたでも参加可能です（先着順）。

◎条件や申請書など詳しいことは右記にお問い合わせください。

愛媛大学校友会事務局

電 話：089-927-8610

F A X：089-927-8609

メール：office@koyu.ehime-u.jp

愛媛大学総務部総務課総務・法規チーム

電 話：089-927-9016

F A X：089-927-9025

メール：soumu@stu.ehime-u.ac.jp

同窓会 提供講座『社会と人間』

講師・お手伝いの方に感想をお聞きしました！

8年目となる2014(平成26)年度提供講座は、法文学部同窓会の全面的支援の下、法文学部の卒業生を講師として下記の日程で開催されました。

例年通り、後期の毎週木曜日・第5限目に開催し、全15回、22名の講師にご協力いただきました。今年も100人近い学生が受講し盛況でした。2015年1月22日(木)には、お手伝いをしていただいた現役学生に感謝状を贈呈し、講師陣も交えて反省会と懇親会を行いました。

回	テーマ	担当日	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/2	鳥生 勉蔵	1988・文地
2	県職員として働く	10/9	梅木 邦加 白石 理俊	2001・人文 2012・総政
3	通訳・翻訳家として働く	10/16	菅 紀子	2000・人文院
4	国税専門官として働く	10/23	楠本 京司 西田 和真	2009・総政 1973・法
5	経営者として挑戦	10/30	宮首 賢治	1980・文哲
6	アナウンサー放送業界で働く	11/6	月岡 瞳 小田 歩	2007・人文 2005・総政
7	金融業界で働く	11/13	矢野 一彦	1985・法
8	映画業界で働く	11/20	渡部 由理 住田 陽一	2009・総政 2002・人文
9	働く女性の現在	11/27	重松 直江 楊 泓	1994・経 2002・総政院
10	警察・消防で働く	12/4	梶川 成保 寒作 典員	1994・法 2000・総政
11	教育の現場で働く	12/11	山田 暢子	1976・文国
12	地域農業振興への挑戦	12/18	渡部 祐衣	2013・総政
13	報道業界で働く	1/8	白川 亜子 北山 裕貴	2003・人文 2003・人文
14	学習塾を立ち上げる	1/15	田尾 昭憲	2005・総政
15	まとめ	1/22	森 孝明	1968・文独

2014年度提供講座の学生に対するアンケート結果

興味深かった講義

- 1位 県職員として働く
- 2位 学習塾を立ち上げる
- 3位 報道業界で働く
- 4位 働く女性の現在
- 5位 国税専門官として働く

満足度

大変満足している	56.8%
やや満足している	40.5%
若干満足している	2.7%
不満足である	0.0%

感想

様々な分野で働く方の話を聞く機会はなかなかないのでよかった／教室が狭くて落ち着かなかった／自分を見直すきっかけになった／就活のため採用状況等も知りたい／自分と同じ学部を卒業した先輩方が立派に社会で活躍されているのを知り、とても勇気付けられ素直に聞くことができた など

2015年度 提供講座・寄付科目開講のお知らせ

▶2015年度 法文学部提供講座 開講計画

回	テーマ	担当日	担当講師名	現 職
1	ガイダンス	10/1	森 孝明	法文学部同窓会会長放送大学 愛媛学習センター長
2	通訳・翻訳家として働く	10/8	菅 紀子	松山大学（法学部）非常勤講師
3	県職員として働く	10/15	栗田 謙 大塚 奈美	愛媛県庁 農林水産部 農政企画局 農政課 各政策推進グループ 担当係長 愛媛県庁、えひめ身体推進局 国体 総務企画課 広報グループ 主任
4	国税専門官として働く	10/22	増本 信也 河野 千玲	松山税務署 法人課税第4部門 松山税務署 財政事務官 松山税務署 財政事務官
5	経営者として挑戦	10/29	大藪 崇	(株)エイトワン 代表取締役社長
6	公認会計士 行政書士として働く	11/5	矢野 和弘 竹内 明久	矢野会計事務所 所長・公認会計士 社会保険労務士・行政書士
7	金融業界で働く	11/12	松本 知大 木山 千鶴	伊予銀行 ソリューション営業部 課長代理 伊予銀行 古川支店 行員
8	働く女性の現在	11/19	佐々倉 愛 古谷 優依	NPO法人Eyes 代表理事 サイボウズ株式会社松山オフィス
9	教育の現場で働く	11/26	山田 暢子	松山大学（経済学部）非常勤講師
10	警察・消防で働く	12/3	梶川 成保 大塚 英俊	伊予警察署 警備課長 松山市東消防署 消火業務担当
11	僧侶として働く	12/10	峰岡 韶秀	天台宗 寶珠山 紫雲寺 住職

* 同窓会員の方は聴講無料です。詳細は教育支援課法文学部チーム (TEL. 089-927-9220) までお問い合わせください。
また同窓会ホームページ (<http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/>) でもご覧いただけます。

回	テーマ	担当日	担当講師名	現 職
12	地域農業振興への挑戦	12/17	渡部 祐衣	ななおれ梅組合 組合員
13	報道業界で働く	1/14	長谷川悠介 伊藤 愛	愛媛新聞社 編集局政治経済部 愛媛新聞社 編集局社会部
14	学習塾を立ち上げる	1/21	田尾 昭憲	特 fit group (フィットグループ) CEO代表取締役
15	まとめ	1/28	小池 昭彦	法文学部同窓会副会長 元(株)レディ薬局監査役

▶2015年度 法文学部寄付科目 実施状況

学期	学 科	科目名	時間割	担 当 教 員
前学期	総合政策学科	地 域 政 策 論	木曜4限	岡本 隆 (教授)
	人 文 学 科	伝 統 文 化 論	水曜3限	畑守 泰子 (非常勤講師) 柴 順 (非常勤講師)

提供講座講師の著書紹介

『怒らない経営』

第5回 (10/29)「経営者として挑戦」講師
大藪崇さん (株)エイトワン代表取締役社長) の本です。



第10回「警察・消防で働く」講師

松山市東消防署 予防担当主査 消防司令補

寒作 典員



ご縁があって、お受けしております本講座の講師も今回で3回目となりました。

私は職務においても講義させていただくことが多いのですが、内容は消防法に関する専門的なことがほとんどであり、受講される方も専門職の方や、これから防火・防災に関係する知識を習得しようとする方々であることから、自ずと内容は決まってきます。しかし、本講座については「消防に関する内容を自由に話してください」との依頼であり、また、普段講義させていただく方々とは違う「大学生が対象」ですから、これは「手強い講座だ」と感じました。

学生生活において沢山の先生方の授業を受けました。大変素晴らしい知識・経験を学ぶことができて勉強になりました。社会人となった今も自己研鑽のため様々な講義を受講しセミナーに参加しています。しかし、案外「人生を変えたきっかけ」や「心に残っている言葉」というのは、「クラブ活動の宿舎に、たまたま遊びに来たOBの先輩が言った、何気ない一言」等だったりします。

私は、幼少の頃から体が弱く病院通いの毎日でした。しかし、そのおかげで「弱者はどのような心で助けを求めているのか」を学ぶことができました。大学の極真空手部で体を鍛え、また、大学生活の中で色々な経験をしたおかげで「忍耐強い、何事にも諦めない心」を学び、「屈強な身体」を身に付けることができました。それらの学んだこと、身に付いたことは、消防官となった今、大変な財産となっています。しかし、そんな財産の存在に気付かせてくれたのはやはり、何気ない方の何気ない一言でした。ですから、この講座においては、消防に関する情報や情熱そして経験、消防官を目指した理由などお話しさせていただく中で何か得てもらえたらと思いました。少しでも、一人でも何かのヒントやキッカケとなったと言ってももらえれば幸いです。

最後に、愛媛大学法文学部同窓会の皆様には、このような母校への恩返しをする場を与您いただいたこと、また、非常勤講師という貴重な体験をさせていただいたことに深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

TAとして運営をお手伝い

法文学部 人文科学専攻 大学院生

田代 桜子 (写真中央)



私は昨年度に続き2年、この授業のお手伝いをさせていただきました。同窓会提供講座では、法文学部の卒業生の中から、様々な職業の方々を講師として招き、ご自分の学生時代や、現在の仕事についてお話をさせていただきます。

TAの業務は、講師の先生方のお手伝いや教室の環境整備、授業中の司会などでしたが、講師の方々がお話をして下さっているときは、一学生として、先生のお話を非常に興味深く聞かせていただきました。毎回多種多様なお話を聞いていると、同じ愛媛大学の法文学部に在籍したとしても、卒業後の経緯や就職先はそれぞれ異なっていることを実感しました。講師の先生方は年齢も多様でしたが、共通していたのは、どの先生も生き生きと、今の職業について語っておられたことです。

先生方のお話を聞いていると、大学での学びが現在の職業に必ずしも直結していないこともあると分かります。これは考え方によっては、法文学部卒業後も、それぞれの選択によって如何様にも可能性は広がっているということであらうと思います。また同時に、大学で学んだことやそこで得た仲間などは、どのような形であれ必ず、講師の方々の現在の仕事や生き方に活かされているのだということも強く感じました。

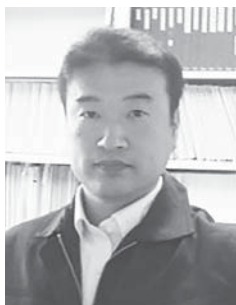
この講座の受講生は2、3回生が主です。特に3回生はちょうど、提供講座受講のころになると就職活動の雰囲気が高まり、準備を始める時期となります。そういった学生達にとって、先生方のお話は大変興味深いようで、真剣な表情で話を聞いている様子が多く見られました。また授業では毎回、質疑応答の時間を設けていましたが、そこでは気が引けるのか発言が出来ない学生でも、講義の終わりに直接講師の方に質問をする姿も見られました。

就職活動や将来へ対する不安を抱えているであろう学生達に、この同窓会提供講座は非常に有意義なものであったと思います。私もTAとして携わることができ、先生方のお話を聞き、交流させて頂けたこと、素晴らしい経験をさせて頂けたと思っています。ありがとうございました。

「四国遍路を世界遺産に」という機運が産官学の連携により盛り上がってきています。その学術面の中心的存在が法文学部附属の「四国遍路・世界の巡礼研究センター」です。歴史・文化を中心に観光学や法学、経済学などさまざまな視点から研究が進められています。研究の最前線について、法文学部教授であり副センター長の胡光先生に書き下ろしで寄稿していただきました。

四国遍路をめぐる最新の研究から

四国遍路・世界の巡礼研究センター 副センター長 ^{えべす} 胡 光
(法文学部教授)



四国遍路・世界の巡礼研究センターの誕生

平成27年1月9日、ニューヨーク・タイムズ紙ホームページで、今年訪れるべき世界の52ヶ所が発表され、日本で唯一「四国」が選ばれ、「四国遍路の場所」として紹介された。写真は第45番札所岩屋寺（久万高原町）が掲載されている。4月24日には、文化庁が「日本遺産」に「四国遍路」など18件を初めて認定し、多くのマスコミはまず「四国遍路」を紹介した。来年には、「四国霊場八十八箇所と遍路道」を世界遺産登録候補となるように、四国4県が文化庁に提案する。昨年、四国霊場開創1200年事業が四国4県で華々しく行われたが、年が明けてからも四国遍路への注目度は益々高まっていると言えよう。

このような時期に、法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センターが創設された。センターに



愛媛大学の学生と歩く遍路道（今治市）

は、国内研究部門（歴史文化研究班・現代社会研究班）と国際研究部門が設けられ、学部内外から歴史学・文学・社会学・哲学・法学・経済学・観光学など多様な分野の教員が25名所属して、四国遍路の歴史や現代社会における遍路の実態を解明し、世界の巡礼との国際比較を行っている。

ここでの研究・教育活動は、①四国の文化を世界に発信、②次世代への伝統文化継承、③四国遍路の世界遺産化を推進するものである。

四国遍路を世界遺産に

四国遍路を世界遺産にという運動は経済界から始まった。平成4年（1992）の世界遺産条約批准後、毎年2件ずつ日本で世界文化遺産が登録されていった頃、四国においては、昭和63年（1988）の瀬戸大橋、平成10・11年（1998・99）の明石大橋・しまなみ海道開通の時期を2つのピークとして、観光客入込数が減少してきており、観光資源の再開発が必要となっていた。3架橋とともに整備された高速道路も、平成12年（2000）には4県都を結ぶXハイウェイが完成し、四国遍路を含む観光客の利用が期待された。各界から「四国はひとつ」の言が相次ぎ、国土審議会特別委員の月尾嘉夫東京大学教授（システム工学）から「四国八十八箇所を世界遺産に」という発言があったのもこの時である。その後、平成の自治体大合併と道州制導入政策ともリンクしながら、世界遺産化運動が展開する。

平成12年夏、経済界は4県知事へ「四国の遍路

文化を世界の人々に——四国遍路文化情報発信の提言——」を提出し、以後も提言を続ける。同じ頃、法文学部に「四国遍路と世界の巡礼」研究会が誕生した。以来毎年シンポジウムの開催と報告書を刊行し、四国の地域史研究を進展させるとともに、これまで行われていなかった世界の巡礼との比較研究によって四国遍路の世界史的意義を明らかにしてきた。四国遍路の研究は、戦前から行われてきたが、平成12年以降飛躍的に進展する。

そして4県合同で、平成18・19年（2006・7）「四国八十八箇所霊場と遍路道」を世界遺産暫定一覧表に掲載するよう文化庁へ提案を行う。結果、将来記載の候補となり得る可能性はあるが、国内外の同種遺産との比較研究を行うこと、保護措置を着実に進めること、体制の整備・充実に努めることという課題が与えられた。これを受けて平成22年（2010）、関係自治体、国分局、大学、経済団体、ボランティア団体、及び霊場会で構成する『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会が設立され、現在では産官学オール四国体制で登録推進に取り組んでいる。

センターでの研究は、世界遺産化のための条件とされる「資産の文化財指定」と「普遍的価値の証明」にも直結する。ここでは、筆者自身の研究視覚を示してみよう。

四国遍路は「遍路する人々」「遍路や霊場を支える地域」「霊場」の3要素で構成されていると考える。これまでの研究では、遍路日記や案内書を用いた「人々」に関わる研究が主体であって、「霊場」に係る研究はほとんど進んでおらず、成立期の「霊場」には、寺院だけでなく、神社も含まれていたことさえ、充分認識されていない。四国遍路の研究で最大の課題は、いつ、誰によって、八十八箇所が形成されるのかということである。そこで筆者は、県や博物館等と連携しながら、札所寺院所有の未公開の資料を総合的に調査・整理し、その全容を解明することによって、四国霊場（札所）の成立と発展過程を明らかにしたいと考えている。

札所寺院全体の調査は、これまで国が明治30年代と昭和40年前後の二度に亘り行ったが、短期間で名品のみの調査であったこと、当時は研究対象ではなく信仰対象であるとして拒否した寺院もあったことにより、札所には未見の資料が大量に眠っている。今日では、札所で構成する霊場会が世

界遺産化推進に加わり、さらに四国霊場開創1200年事業によって調査への協力体制が整った。

近年の代表的な研究成果として、第45番札所岩屋寺（久万高原町）での「こけら経」（木片に書かれた写経）発見が挙げられる。寺内浩教授（四国遍路・世界の巡礼研究センター長）を中心に分析中の1万点を超える「こけら経」は、愛媛県では唯一、全国でも有数のもので、八十八ヶ所成立の謎にも迫れる貴重な文化財的価値を持つと考えており、『愛媛新聞』でも紹介され、愛媛大学ミュージアムや地元久万高原町でも展示公開をした。

筆者が中心になって行った調査成果も、NHKや愛媛新聞などで採り上げられた。その一部を以下に紹介してみたい。



第45番札所岩屋寺大師堂（重要文化財）



愛媛大学ミュージアムの岩屋寺こけら経展示

四国霊場開創1200年の真実

平成26年（2014）は四国霊場開創1200年として、数多の記念行事が実施された。弘法大師開創とされるのは、弘仁6年（815）の平安時代初期のこと。残念ながら同時代の史料には、この年の開創記録はない。ただし、若き空海が行った厳しい山林修行を始源とするような、「辺地修行」の場が平安時代の四国にあったことは確認できる。弘仁6年の重要性は、大師42歳の厄除けに遍路を行い、翌年に高野山を拝領するという史実も混ざった伝承にある。

開創伝承の学術的検証は無かったが、42歳を厄年とする習俗は江戸時代に生まれるが定着していないこと、霊場会創設のなかで、大正3年（1914）に1100年事業を行ったことを伝承の起源とする研究が愛媛県歴史文化博物館の大本敬久氏によって出された。そこで、筆者が研究している霊場の史料から開創伝承を再考してみたい。

第65番札所三角寺（四国中央市）の本尊十一面観音像と奥之院仙龍寺の本尊弘法大師像は、弘仁6年の大師自作とされ、開運厄除観音・大師として信仰されている。しかし、江戸時代前期、澄禪『四国辺路日記』には、大師が18歳の時に奥之院で自像を彫ったと記され、後の真念による案内記『四国辺路道指南』では、奥之院の自像彫塑に加えて札所本尊も大師御作とされた。

第52番札所太山寺（松山市）には、縁起が5つも伝来する。室町時代成立の縁起には、弘法大師が登場しないが、江戸時代前期に、大師の開山と八十八ヶ所の記述が現われ、中期には、大師聖跡が紹介される。弘法大師信仰の拡大は、四国遍路



第88番札所大窪寺本堂

の隆盛とも一致する。

結願の霊場・第88番札所大窪寺（香川県さぬき市）にも2種の縁起がある。幕末の縁起は、行基菩薩が開基、弘仁年間に42歳の弘法大師が再興し、八十八ヶ所霊場の88番札所にしたとする。四国霊場を42歳の大師が開創したという伝承は、幕末までに誕生していた。

62歳で空海が没した後、86年たって醍醐天皇から弘法大師の尊称が贈られ、大師は高野山奥之院において永遠の冥想を続けるのである。人間空海の史実だけでなく、後世に展開する弘法大師信仰の中での宗教的な大いなる大師の真実もまた、四国遍路の歴史となった。

太山寺と伊予の霊場

四国霊場第52番札所瀧雲山護持院太山寺は、松山平野北部の山間に位置し、堀江湾を臨み、奥之院からは瀬戸内海を一望できる。鎌倉時代末に建立された本堂は国宝、仁王門と本尊十一面観音立像は重要文化財である。四国最古の弘法大師画像や梵鐘は愛媛県指定文化財、最古の四国遍路札挟みは松山市指定文化財となるなど、四国遍路の歴史を考えるうえで重要な霊場であることは論を俟たない。さらに、当寺の創建は、用明天皇2年(587)豊後国の真野長者が海難を逃れた礼に一夜建立したと伝えられる。四国霊場の開基は、行基菩薩か弘法大師とされることが多いなか、唯一の事例である。

愛媛大学と愛媛県美術館は、当寺の総合調査を合同で行い、その成果を昨秋、美術館の特別展で公開した。当寺の御協力によって、諸堂全ての彫刻・絵画・工芸品・聖教・古文書類の調査を行い、その調査資料数は1万7,000点に及んだ。その調査成果から、太山寺と伊予の霊場の特色や四国遍路の歴史を紹介してみよう。

太山寺本堂には、後冷泉院・後三条院・堀河院・鳥羽院・崇徳院・近衛院・後白河院が奉納したという平安時代後期制作の十一面観音立像が7躯も安置され、全て重要文化財に指定されている。今次調査では、これらと同時期に制作されたと思われる5躯の如来像や不動明王像、神像が確認された。これほどの平安仏教遺物が残っている例はなく、伊予国内外からの信仰を集める当寺の特殊性を示している。

太山寺文書からは、河野家をはじめ、加藤・蒲生・松平家という歴代領主家の厚い保護を受けたことがうかがえる。さらに、5種の古縁起が発見された。室町時代成立の縁起には、室町聖武天皇の勅願による行基菩薩の開基が謳われていた。江戸時代前期の縁起には、弘法大師開山と八十八ヶ所の記述が見え、中期の縁起には海運の発達と四国遍路の隆盛によって、豊後（大分県）から真野長者伝説が伝わってくる。これによって後期の縁起は、当寺の開基を用明天皇代の真野長者とし、行基菩薩は本尊由緒に特化された。

その背景には、九州での弘法大師と四国遍路信仰の拡大があった。西方からの四国遍路の玄関口として、太山寺と高浜・三津浜が知られていたのである。

松山藩からの通達も残っていた。真野長者伝説が伝わったのと同じ頃、松山藩では三津浜に制限していた上陸を太山寺近くの高浜も許可する。西方からの四国遍路増加状況が分かる。上陸した遍路が目指したのは太山寺であった。

太山寺境内には他寺とは比べ物にならない圧倒されるほどの遍路の落書きが残されている。江戸時代後期から明治時代の年記と九州・中国地方の地名が多いこれらの墨書からは、西方からの遍路が最初もしくは最後に参詣した当寺において安堵などの気持ちを綴った遍路の姿が思い浮ぶ。指定文化財の梵鐘にも、永徳3年（1383）豊後丹生の大工名が刻まれる。

前述の平安仏像も、都との関係だけでなく、特徴的な平安仏教文化を伝える豊後との関係をもつ



第52番札所太山寺本堂（国宝）



学生と古文書調査（太山寺）

と調べてみる必要がある。

四国遍路を発展させた真念『四国辺路道指南』や細田周英『四国徧礼絵図』をはじめとする江戸時代の案内本の多くは、畿内目線で書かれ、畿内で刊行された。このため、四国遍路の研究も東方からの遍路に偏ったものになっている。太山寺の例ばかりでなく、大分から八幡浜に上陸した高群逸杖の『娘巡礼記』や第41番札所龍光寺参詣道に残る豊州人の元禄鳥居など九州との関わりは伊予の霊場の特色である。太山寺の真野長者伝説は、その象徴と言える。西方の遍路を迎える伊予霊場の研究は、遍路研究にも新たな視点を提供するだろう。

【参考文献】

愛媛県生涯学習センター『遍路のこころ』2003

愛媛県歴史文化博物館『弘法大師空海展』2014

愛媛県美術館『空海の足音 四国へんろ展 愛媛編』2014

香川県立ミュージアム『空海の足音 四国へんろ展 香川編』2014



太山寺境内に残る遍路の落書き

小説『坊つちやん』や正岡子規との親交などで、愛媛と縁の深い夏目漱石。その漱石の帝国大学卒業後の進路に、一人の愛媛県人が大きく関わっていたという事はあまり知られていません。もしかしたら松山中学に赴任することも、文豪として名を馳せることもなかったかもしれない？ 同窓会提供講座で講師も務めて頂いた菅紀子さんの考察を、『英学史研究』（日本英学史学会）から一部転載し、ご紹介します。

就活のライバルー夏目漱石と重見周吉

松山大学（法学部）非常勤講師 菅 紀子
(2000年 人文〈院〉卒)



はじめに

夏目漱石は1893（明治26）年帝国大学文科大学を卒業後大学院に入る一方、最初の就職活動として学習院に応募したが結果は不採用であった。これについて、『増補改訂 漱石研究年表』（集英社1984年）によると、同年8月23日付狩野亨吉の村田祐治宛手紙に、学習院に就職する件は、茂野氏〔重見周吉〕が決定したのなら諦めなくてはならぬのではないかと問い合わせた。狩野は23、24、26日と漱石を訪問し、26日の「狩野亨吉日記」には「学習院の位地終り重見に帰し夏目は遂に敗れたり。」と記した。これについて同年表は次のように注釈している。

学習院に勤めていた工藤一記（嘉永6年生れ、大阪師範学校卒。学習院教授・幹事・庶務課を担当）の推薦で就任運動が進められていたが、これはアメリカ帰りの重見周吉（慶応1年愛媛県生れ。エール大学理学部・医学部卒）が就任したのでだめになる。8月24日、村田祐治（明治25年9月から28年11月まで学習院に在職）は、上会津屋（住所略）に湯治に行っていた立花銑三郎に、「ナツメノコトスグカイレ」という電報を打つ（これも学習院就職と関係あるかと思われる）。狩野亨吉は村田祐治から聞いたと記している。（『増補改訂 漱石研究年表』）

立花銑三郎は帝大の一年先輩で当時学習院嘱託教授であった。漱石の書簡をみると、狩野から村

田に当てた上記の便りに先立つ7月12日、立花に「此際断然決意の上学習院の方へ出講致し度」と依頼の手紙を送っている。しかし結局一ヶ月も過ぎた8月15日漱石は再び立花宛に「小生出講の儀につきては種々事情出来余程奇観に御座候何しろ駄目の事とあきらめ居候」と書き送った。10月、第一高等学校からも就職口はあったが、学長外山正一の推薦で、最終的に東京高等師範学校英語嘱託になる。さらに高等師範と東京専門学校を辞して愛媛県尋常中学校の嘱託教員に就任したのは、学習院就職に失敗してからわずか一年半程後の1895年4月であった。



松山中学時代の夏目金之助



エール大学時代の重見周吉

このような経緯をみると、大学卒業後の漱石の軌跡は学習院不採用から始まったともいえる。しかし確かな人脈を有しながらまさかの不採用をもたらした原因ともいえる人物、重見周吉についてはこれまで殆ど調査されていなかった。しかし、

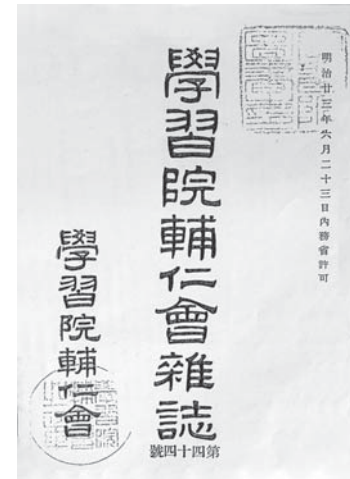
本学会員の恒松郁生氏がロンドンの古書市場で英文著書『日本少年』英語名 *A Japanese Boy by Himself* を発見され、当書の著者が漱石と学習院教授の座を争った重見周吉であることを指摘された。そこで重見周吉の人物像を明らかにするとともに、『日本少年』の意義、漱石に与えた影響について考察したい。

1. 『私の個人主義』冒頭における言及

『私の個人主義』は夏目漱石が晩年満47歳のとき学習院大学から要請を受けて行った講演記録で——大正三年十一月二十五日学習院輔仁会において述——と付記がある。講演後、講演録は書き直され、翌大正4年3月22日には学習院大学が発行する『輔仁会雑誌』に掲載された。この講演が他の講演と差異を持つのは、漱石が自筆の原稿を残していることである。構想を練り壇上で話して終わったものとは一線を画している点において著作の範疇に入れる場合もある。そこにあえて書き残しておきたい漱石の意思があったと捉えることができるのである。冒頭には本題に入る前の導入部が記されている。まず気づくことはその前置きの話が長いことである。

「たとひ私にした所で、もしこの学校の教授にでもなつてゐたならば」と仮定する。ここで漱石は学習院の教師になる可能性のあったことを明かすのであるが、学生時代を終え「さて愈世間へ出て」初めての職を得る瀬戸際で生じた進路の分岐点を学習院で経験し、21年後実際に学習院へ足を運んで講演をする巡り合わせとなった。漱石は2年後没したため結果的に作家として晩年の講演と講演記録となった。学習院の教師になろうとした経緯を説明する部分で、漱石ははっきりと「其時分私の敵が一人ありました。」と書いている。しかし斡旋してくれた人を信じ、「まだ事の極らない先にモーニングを誂えてしまった」後自分は採用されなかったことを知る。（「」内『私の個人主義』引用、傍点筆者）

さうしてもう一人の男が英語教師の空位を充たすことになりました。其人はなんとという名でしたか今は忘れて仕舞ひました。別段悔しくも何ともなかったからでせう。何でも米国帰りの人とか聞いてゐました。——それで、もし其時



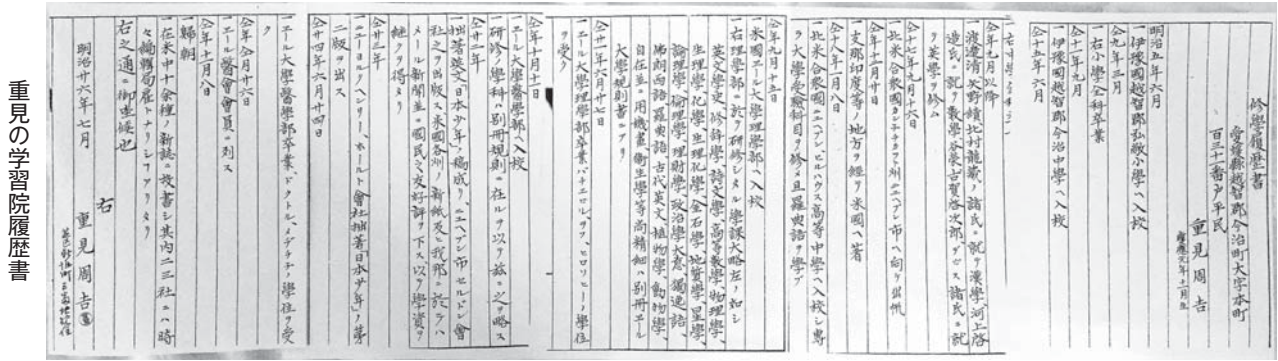
輔仁会雑誌（学習院）。重見の記事を掲載している29、31、36、44号の内44号

にその米国帰りの人が採用されずに、この私がまぐれ当りに学習院の教師になって、しかも今日迄永続していたなら、こうした鄭重な御招きを受けて、高いところから貴方がたに御話をする機会も遂に來なかつたかも知れますまい。それをこの春から十一月迄も待って聴いて下さうといふのは、取も直さず、私が学習院の教師に落第して、貴方がたから目黒の秋刀魚のやうに珍しがられてゐる証拠ではありませんか。（『私の個人主義』傍点筆者）

この漱石の運命を変えたともいえる「もう一人の男」「米国帰りの人」が重見周吉である。『私の個人主義』には重見の名は書かれておらず、忘れたかのように言う。さらに講演文面では重見にそれほど関心を払ってはいない風に書いている。しかし「敵」といい、内心相当なライバル意識を抱いていたのではなからうかと推測される。当時の書簡から漱石が学習院の職を切望していたのは自明であり、かつ『私の個人主義』冒頭、モーニングのエピソードがそれを象徴している。

2. 重見周吉の略歴

重見周吉は1865年（慶応元年）11月22日愛媛県今治市の商家に生まれた。8人兄弟姉妹の6番目である。学習院に残る修学履歴書に従って述べると、出身地は「愛媛懸越智郡今治町大字本町百三十一番戸平民」とあり、明治9年3月「伊豫国越智郡弘敏少學」を全科卒業すると、同11年9月「伊豫国越智郡今治中學へ入校」、同15年6月「中



學全科卒業」^①となっている。同年9月以降、「渡邊清、矢野績、北村龍藏ノ諸氏二就テ漢學、河上啓造氏二就テ數學、谷榮、古賀啓次郎、デビス諸氏二就テ英學ヲ修ム」^②、同17年9月16日、「北米合衆國カン子チカット州ニユヘブン市ヘ向ケ出帆、支那印度等ノ地方ヲ經テ米國ヘ著」^③。18年1月8日から「ニユヘヴン、ヒルハウス高等中學へ校シ専ら大學受験科目ヲ修メ且羅典語ヲ學ブ、同年9月15日米國エール大學へ入校」した。同21年6月17日エール大學理學部を卒業、学位を受けると引き続き四ヵ月後の10月11日には醫學部へ入校した。医学部入学の翌22年、「拙著英文『日本少年』ノ稿成り、ニユヘブン市セルドン会社之ヲ出版ス。米國各州ノ新紙及ビ我邦二於テハメール新聞並二国民ノ友好票ヲ下ス。以テ学資ヲ得タリ」^④。さらに翌23年にはニューヨークヘンリー、ホルト会社より拙著「日本少年」ノ第二版ヲ出ス、とあり引き続き学費の調達を確保して1891年（明治24年）6月24日「エール大學醫學部卒業」、医学博士の学位を得た。6月26日「エール醫學會會員二列ス」、同年11月8日に帰朝した。「在米中十余種ノ新誌二投書シ其内二三社ニハ時々編輯局雇トナリシフアリタリ」。末尾日付署名、押印の後にそれまでの清書とは異なる字で「芝区新惟町三番地枕住」と読める。（下線及び番号筆者）

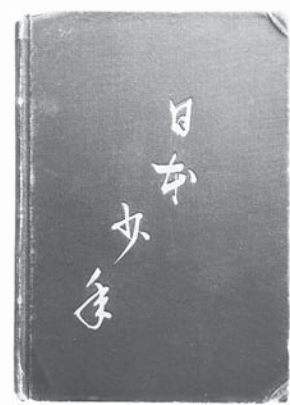
以上修学履歴書には学習院に採用されるまでの以上の経歴が記されている。これまでに下線部について次のようなことがわかった。下線部①について、当時今治中学はまだ開校していない。下線部②について、学校名がないが、重見は今治からまず同志社へ進学したことが別の資料から判明した。中学卒業から渡米までの間を埋める事実として、「創立120周年記念『同志社教員歴史名簿』（1996年12月1日発行）に重見周吉の名があり、1882（明治15）年4月9日同志社教会に入会、受

洗しクリスチャンとなっている。すると履歴書に見える英学を学んだデビスとは新島襄と同志社を創立したDavisかと推測される。また、本学会員北垣宗治氏によると、重見は1882年同志社英学校に編入学、1884年6月26日に卒業した「正課卒業生」10人の一人で、その10人は阿部磯雄、岸本能武太、村井知至、新原俊秀、山岡邦三郎らを含む秀才クラスだったという。

3.『日本少年』について

重見周吉がエール大学に留学中現地にて英文で著した自伝的エッセー *A Japanese Boy By Himself*、邦題『日本少年』、1889（明治22）年発行。自身の生まれ育った今治の情景にあわせて、日本人の少年の生活やそれを取り巻く家族や友人、隣人、周囲の逸話などを織り込み明治日本の地方都市の様子を気負いなく生き生きと描写している。

当著作の書評をインターネット公開の米国議会図書館データから発見した。出版の翌1890年2月、William L. Kingsley なる人物が *New Englander*、後の *Yale Review* 誌上で書評している。それによると、キングスレイは重見の著作を、日本人自身

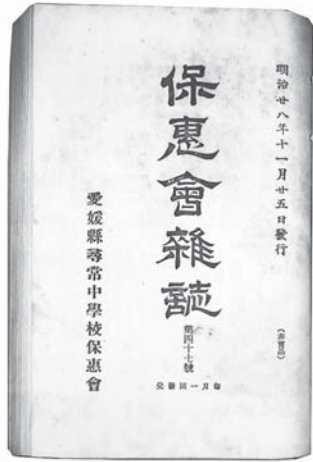


『日本少年』表紙（1889年初版）

が少年の視点から家庭生活を紹介したことを評価し、書籍の直接購入方法まで案内している。確かに明治維新聞もなく日本に文明開化の波が押し寄せた時代、合衆国本土で日本庶民の生活を知る術は殆どなかったはずで、重見の果した貢献は大いに評価してよい。同時にキングスレイは当時全米の大学に在留する留学生の中でも日本人留学生の優秀さを指摘し、その典型の一人として重見周吉を挙げている。さらに、日本人留学生を通して見た日本人の精神性を「騎士道」と表現した点が注目される。

ここで当時出版された他の日本人による代表的な英文著作を列举してみると、新渡戸稲造『武士道』1900（明治33）年、内村鑑三『余はいかにしてキリスト信者となりしか』1895（明治28）年、岡倉天心『茶の本』1906（明治39）年、等がある。これらを『日本少年』と比較すると、発行はいずれも『日本少年』より遅く、中で最も早い『武士道』でも11年後の出版である。キングスレイが書評で「騎士道」という語に言及したのは、日本人の精神性を形容するにあたり、新渡戸の著作で「武士道」という語が定着する約10年前であった。しかもそれぞれの著者の出版時の年齢は重見が24歳であるのに対し、新渡戸稲造は40歳、岡倉天心は44歳、内村鑑三は34歳に達している。年齢差から、『日本少年』は重見が学業半ばにしていかに若年で成し遂げた出版であったかがわかる。この点において英文著書『日本少年』は米国本土で成された日本人による異文化紹介の草分けの仕事であったという意義を認めることもできるのである。

国内においては本学会員 西忠温氏により『国民の友』誌上に書評が発見された。もっとも著者名は重見某氏（傍点筆者）となっており、主に医学界に所属したせい、当時から影が薄かったようである。また岡倉由三郎が『日本人の欧文学』で評している。岡倉由三郎は夏目漱石と帝大文科大学同窓生で、1893年漱石が無念の思いで学習院就職を諦めたまさに同時期、文科大学の学生が始めた「文学座談会」の研究発表と座談に両者共出席していた。さらに、ロンドンに留学中の漱石は、岡倉由三郎が当地に留学してくる際現地受入れ側の手筈をしたほか、渡英中は逆に由三郎がロンドンの漱石の様子を文部省に報告している。憶測に過ぎないが、ロンドンにおいて二人が重見周吉について話を交わしたり漱石が『日本少年』を読んだ可能性も否めない。



保惠会雑誌（松山中学）

おわりに

学習院採用に際して一時的に同じ土俵に立った夏目と重見は、その後永遠に遠ざかり、それぞれの道を歩んだ。夏目は学習院の「落第」以後、晩年同所に初めて足を踏み入れ、「教育者として偉くなり得るやうな資格は私に最初から欠けてゐたのですから、私はどうも窮屈で恐れ入りました。」（『私の個人主義』）と語ったが、その感慨は既に、学習院輔仁会雑誌に相当する松山中学保惠会雑誌に吐露されていた。「余は教育者に適せず、教育家の資格を有せざればなり、其の不適當なる男が、糊口の口を求めて、一番得易きものは、教師の位地なり。」（『愚見数則』）また夏目漱石が官費留学を要請されても快諾せず一旦断りかけたのは、重見の「洋行帰り」が採用の判断材料にもなった苦い思い出が想起されたからかもしれない。しかし漱石は重見が介入した初めての挫折にこだわり掘り下げ、自己本位を確立し文学者となった。

重見周吉は、明治という時代性、今治という地方性の中から向学心を成就させ、米国で日本の地方文化、日常生活を少年の視点で語る異文化紹介の優れた英文著書を出版した。その過程重見において特に英語習得と留学は、同志社なくしては達成し得なかったものである。さらに帰国後は留学で培った英語力を慈恵医学校及び学習院教授職で発揮するが、学習院教授職をめぐっては期せずして作家以前の夏目漱石（当時金之助）の進路に端緒的に関与することとなる。しかも結果的には漱石に重要な方向性を与えた人物だったのである。

日本英学史学会『英学史研究』第38号 抜刷（2005年10月1日）より一部転載

理事会報告

2014年度 第2回(通算第63回)理事会

日 時：2014年10月17日（金）18：00～21：00
場 所：愛媛大学校友会館2 F
出席者：29名

【報告事項】

- 第5回ホームカミングデイについて
- 2014年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
- 2014年・第18号同窓会報発行
- 支部活動・支部長会など報告
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会報告
会長会 6月25日（水）
校友会理事会 6月27日（金）
- 愛媛大学の学部再編について

【審議事項】

- 2016年・第14回総会について（開催時期・場所など）
- 次期理事・三役の人選について
- 学部再編に対応した同窓会の今後について
・新学部の同窓会設立までの受け皿として、引き受ける準備をしておくかどうか。
・会費の値上げについて
・名称・規約の変更

→継続して検討します。

2014年度 第3回(通算第64回)理事会

日 時：2015年2月13日（金）18：00～21：00
場 所：愛媛大学校友会館2 F
出席者：28名

【報告事項】

- 2014年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
10/2（木）から1/22（木）まで15回にわたり開催されました。
最終回には講義後、反省会・懇親会を開催しました。
- 2015年度会報編集委員会スタート
- 支部活動・支部長会など報告と予定
支部長会議 11月14日（金）
- 大学関係行事報告、会長会・校友会理事会予定
ホームカミングデイ 11月8日（土）
会長会 1月28日（水）
- 2014年度決算（暫定）について
- 愛媛大学の学部再編について

【審議事項】

- 2015年度予算案について
収入は541万円程度が見込まれます。支出は関東支部交付金が80万円（50周年）から40万円（例年）に、寄付科目が4コマから2コマに減るため30万円減になります。会報発行経費は300万円を切る予算にしました。全体としてはここ2年続いている800万円超から765万円に抑えた予算としました。
→総会費用を追加して次回再提案します。
- 2015年・第14回総会について（開催時期・場所など）
→見学の件を除いて承認されました。
- 同窓会費・規約の見直しについて
学部再編の平成28年度から、同窓会費を2万円（現在1万円）に引き上げるよう見直したいと考えます。
→承認されました。
- 次期理事・三役の人選について
→継続して検討します。

2015年度 第1回(通算第65回)理事会

日 時：2015年6月19日（金）18：00～21：00
場 所：すし丸 本店
出席者：32名

【報告事項】

- 2015年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
- 2015年度会報編集委員会
- 同窓会員 会員数報告
【2015年3月末卒業生】（P29参照）
【2015年4月新入生】
総合政策学科 昼間主266 夜間主72 計338
人文学科 昼間主128 夜間主65 計193
編入生 昼間主17 夜間主25 計42
総計 昼間主411 夜間主162 計573
- 支部活動・支部長会など報告と予定
四国支部お花見 4月18日（土）
- 大学関係行事報告、会長会・校友会理事会予定
卒業式 3月24日（火）
入学式 4月6日（月）
- 愛媛大学の学部再編について

【審議事項】

- 2016年度法文学部同窓会寄付科目・提供講座の開講について
→来年度も開設することで承認されました。
- 2014年度決算報告および承認
1) 収入539万9,266円に対し、支出826万6,524円となり、286万7258円の赤字となっています。
2) 収入は、新入生会費が539万円、利子収入が9,266円、計539万9,266円です。
3) 支出では、事務局手当96万円、法文学部事務謝金5万円、交通費24万2,780円、三役会議・理事会・監査経費41万1,892円、新卒業生33万7,275円、支部活動費195万3,946円、会報発行経費303万9,506円、事務経費35万9,904円、学部学生就職支援81万4,500円、渉外活動費3万5,064円、雑費6万1,657円、計826万6,524円です。
4) 6月3日（水）に、高谷監事と畑中監事により監査を行いました。
→承認されました。
- 2015年度予算案（再提案）
総会会費収入18万円、四国支部負担金8万5,000円、総会・懇親会支出42万円で、2015年度収入合計が567万8,000円、支出合計が807万2,800円、赤字が239万4,800円です。
→承認されました。
- 2015年度の事業計画
1) 同窓会報は、同窓会員への大学紹介や会員相互の情報交流の場として、毎年1回の発行を行います。同時にホームページの充実を図ります。
2) 支部活動の活性化を重視し、会長・副会長・理事を中心に各支部総会へ出席し交流を深めるとともに、支部長会議を開催します。
3) 9年目を迎える「提供講座」を充実させます。各分野の講師との交流を深めるだけでなく、現役学生とのつながりを広げます。
4) 11/28（土）の総会に向けて、現体制の総括と新体制へのスムーズな移行をはかるとともに、同窓会費および同窓会規約の見直しを進めます。
5) 同窓会名簿の精度を高めます。
6) 日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。
→承認されました。
- 第14回総会日程などについて
→承認されました。
- 同窓会規約の見直しについて
- 次期理事・三役の人選について

法文学部 人事異動（2015年4月1日付）

（昇任）

教授
教授
教授
教授
准教授
准教授
准教授

川口 和仁
曾我 亘由
岡本 隆
岡本 直之
崔 英靖
米田 誠司
田川 靖紘
山口 信夫

総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科

政策情報科学講座
政策情報科学講座
政策情報科学講座
マネジメント講座
マネジメント講座
政策情報科学講座
ガバメント講座
マネジメント講座

数理経済学
ミクロ経済学
情報産業論
会計情報論
経営政策
観光産業論
刑法
流通論

（採用）

准教授
准教授
講師
准教授
准教授
講師
講師
講師

石坂 晋哉
三上 了
三宅 裕樹
大塚由美子
兼子 純
児玉 麻美
中川 未来
水野 卓

総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科
人文学科
人文学科
人文学科
人文学科
人文学科

政策情報科学講座
政策情報科学講座
政策情報科学講座
人文学講座
人文学講座
人文学講座
人文学講座
人文学講座

アジア地域研究
国際協力論
財政学
心理学
地理学
ドイツ言語文化
日本史
アジア史

（採用—継続）

寄附講座教授 有期契約職員
寄附講座教授 有期契約職員
連合法務研究科教授 特定教員

大西 正志
湯浅 良雄
高田 義之

総合政策学科
総合政策学科
総合政策学科

（敬称略）



放送大学愛媛学習センター 開設20周年記念事業のご案内



放送大学附属図書館所蔵コレクション展 —日本残像—

（フロスト、ケンベル、シーボルトなどの貴重図書、ちりめん本およびボンティング撮影の古写真などのコレクション）

日 時：2015年11月11日(水)～12月21日(月)（火曜日休館） 入場無料
10:00～16:30（最終日は12:00まで）

会 場：愛媛大学ミュージアム（愛媛大学城北キャンパス内）

主 催：放送大学附属図書館、放送大学愛媛学習センター、愛媛大学ミュージアム

【公開講演会】

放送大学附属図書館所蔵コレクション展 —日本残像—の魅力

講 師：森 孝明（愛媛学習センター所長、法文学部同窓会長）

日 時：10月11日(日) 13:00～14:30 入場無料

場 所：愛媛学習センター（愛媛大学城北キャンパス内）4階

入学も受け付けています。



放送大学 検索

〒790-0826 松山市文京町3番
放送大学愛媛学習センター
TEL 089-923-8544

愛媛大学城北キャンパス環境整備落成式を開催しました 2015.3.10(火)

平成27年3月10日(火)、愛媛大学城北キャンパス環境整備落成式を南加記念ホールなどで開催し、本学役職員及び工事関係者など約170人が集まりました。

本学は、平成26年3月27日から平成27年3月10日までの約1年間「愛媛大学城北キャンパス環境整備」として、グリーンプロムナード、グリーンプラザ、歴史を学ぶ庭、共通教育講義棟南広場の4つの区域(1万6千平方メートル)を整備してきました。その完成にあたり落成式を開催しました。

落成式では、まず、柳澤康信学長から、本整備の基本コンセプトの説明や本整備にあたって貢献いただいた方々への感謝の言葉が述べられました。



挨拶をする柳澤学長



感謝状贈呈

続いて、柳澤学長から全体の監修をされた神戸国際大学教授の白砂伸夫氏、モニュメントを製作された彫刻家の濱田亨氏、土木工事を施工された渡邊建設株式会社代表取締役の渡邊政富氏及び電気工事を施工された愛媛通信建設株式会社代表取締役の天野浩司氏に感謝状の贈呈があり、これを受け、白砂氏、濱田氏からそれぞれ御挨拶をいただきました。

その後、正門正面に設置されたモニュメントの除幕式を行いました。モニュメントの全容が現れると、参加者から歓声が沸き起こりました。除幕式終了後、雪が舞う寒い中、参加した皆さんでキャンパス内を散策し、本整備について理解を深めました。

本整備により、愛媛大学城北キャンパス全体が、学生、教職員はもとより地域のみなさまにも広く利用いただける空間として、新たなコミュニケーションゾーンとなることを期待しています。



除幕式の様子



グリーンプラザ



キャンパス散策の様子

モニュメントの解説



製作者の濱田氏によるモニュメントの説明

この作品のタイトルは「權持て、杖立てよ、鐸打ち鳴らせ」です。愛媛大学のひとつの理念〈知の共同体を築く〉ための、知を運び共同体を拓いていく舟があります。しかし舟だけではなく実際にそれを漕ぐ意思こそが要るのです。それが「權を持て」ということなのです。愛媛大学のもうひとつの理念〈地域にあって輝く〉には、自らの殻を破り、地域にいながらも無限に自由な世界で光輝けという願いが込められています。その思いを常に掲げておく為に、この2つ目の作品を「杖を立てよ」と名づけたのです。

3番目の大学の理念は〈百年の伝統に学ぶ〉です。大学の100年の叡知の蓄積に誇りを持ち高らかにこの宝鐸を打ち鳴らせてください。

(濱田亨氏HP「愛媛大学噴水彫刻除幕式のスピーチ」より抜粋要約)

「マツヤマお城下リレーマラソン」に法文同窓会チームが出走!

精鋭7名が、**42.195km**を走ります。

チーム名: 愛大法文学部同窓会

会場: 松山市堀之内城山公園内

日時: 平成27年10月10日(土) 11:00スタート

目標は4時間以内の完走。時間のある方は応援に来てください。

第64回愛媛大学学生祭を開催しました

2014.11.8(土)~9(日)

平成26年11月8日(土)~9日(日)、第64回愛媛大学学生祭を開催しました。

今年のテーマは「Shout !!」でした。学生たちの熱い「Shout !!」、ご来場の皆さまの楽しい「Shout !!」、様々な想いがこもった「Shout !!」が響き渡った2日間となりました。

11月8日(土)に行われた開祭式では、恒例のお菓子まきが行われ、小さな子どもから大人までお菓子に向かって一直線に走り、夢中になって拾っていました。参加した皆さんは、袋いっぱいにお菓子を持ち、満足した顔をしていました。

その後、各ブースで企画・バザー・展示が始まりました。企画の部では、チアリーディング部やダンス部などが大いに観客を盛り上げてくれました。バザーの部では、それぞれに工夫を凝らしたお店を出しており、定番のたこ焼きやフランクフルトから、揚げアイスといった変わり種まで、誰もが楽しめるようなラインナップとなっていました。展示の部では、おぼけやしき、落語・漫才など、どのブースも学生とは思えないほど質の高い内容で、非常に好評でした。



少林寺拳法部による演舞



合気道部による演舞

11月9日(日)はあいにくの雨ではありましたが、学生たちの「Shout !!」はとどまることを知りません。どのブースも、雨に負けじと大変活気づいていました。

今年のスペシャルライブでは、「chay」さんがゲストとして来てくれました。整理券配布時には長蛇の列ができており、県外からのファンもいました。また、「オタケビ!!~思いのたけを思いっきりお呼び!!~」が行われ、中には、小学生のかわいらしいオタケビが会場に響き渡りました。

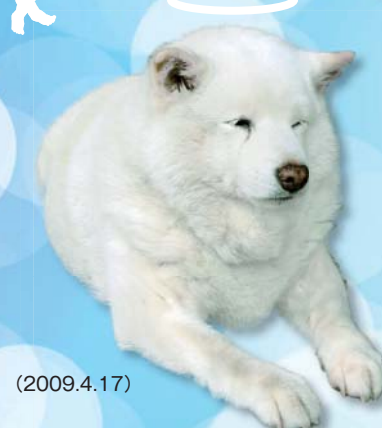
終盤に行われた演武祭では、法文極真空手部・少林寺拳法部・合気道部が、それぞれ技を披露しました。中には、ユニークな劇で会場を沸かせる場面もありました。

全力で「Shout !!」できた人もそうでなかった人も、この学生祭を通して、普段の授業では味わうことのできない貴重な経験をしたと思います。ここで得た教訓を、大学生活の中で生かして欲しいです。



天国に旅立ったハナちゃん

アイドル犬「ハナちゃん」が今年1月に天国に逝ってしまいました。会報にも度々登場し、ファンも多かったハナちゃん。安らかに眠ってね。



(2009.4.17)



(2012.5.30)



(2012.5.30)

2010年卒業 峰岡 韶秀^{しょう しゅう} [総合政策学科]

私が愛媛大学法文学部に学び始めたのは20歳も過ぎた頃でした。当時、私はご仏縁を戴き松山市内の寺に弟子入りし、小僧生活を送っていました。生まれ育った環境とは180度違う生活にも慣れたある日、師僧は私に「ちょっとなあ、愛媛大学潜り込んで法律の勉強をしてこんかあ？ 法律を学ぶことによって人々の心を知ってなあ、ほんで困った人の手助けや道づけてみることに頭使こうてみんなあ」と師僧独特の言い回しで話されました。寺の生活の中で、悩み相談や駆け込み寺として師僧を訪ねてやって来る人達が後を絶たなかった現実をみていたことや、一人一人の悩みや苦しみに本気で向かい合い、どんなことにも動じず、時には辛抱強く耐え最善を尽くす師の姿に、いつしか私は師僧と同じ道を歩みたいと思うようになっており、師僧からの提案をすんなり受け入れたことが愛媛大学へのきっかけとなりました。(師僧は愛媛大学卒業後、住職を勤めながら中学教諭をしていた)



比叡山延暦寺大法会教区法要

そして翌年、修行僧兼大学生としてスタートを切った私にいきなり衝撃が走りました。教室に入ると席が後ろからではなく最前列から埋まっているのです。幼少より柔道を習い高校は四国でもトップクラスの柔道名門校に進み、それまで勉強そっちのけの中高時代を過ごした私にはこの光景が強く胸に残りました。勉強をサボってきた自分は他の学生以上に励まないと差が開くばかりだと言ひ聞かせ(別に競争しているわけではないが学費を師僧に出してもらっていたのでプレッシャーもあった)次の授業から前列に座り続け、分からないことは何度も教官に質問し、それでも理解できなければ教官室に通い、自分なりに努力して過ごしたことを覚えています。恥ずかしながら、大学生にして初めて学ぶ楽しさを知り、学べる喜びを知りました。

時は経ち、私は繁栄寺という寺の住職を拝命し、弟子を持つ身となりました。私の寺の特徴は祈願や厄除け、おみくじといった人々の現世利益を願う祈禱を専門



白鵬関

としていることです。当寺のおみくじというのは皆さんが知っているおみくじとは異なり、おみくじ発祥の地、比叡山元三大師堂の流れを汲むものであります。簡単に説明しますと人生の岐路に立った時、迷った時、判断のつかない時など、元三大師様に誦経とともにお願いし、僧侶がおみくじをいただき、人智を超えた知恵にしたがって、どう進むべきかその内容を解説し、お導きするものです。

近年では、繁栄寺という名の寺は全国に1ヶ寺しかなく、非常に縁起が良いと言われ、繁栄不動尊として信仰されるようになりました。その代表格が横綱白鵬関です。愛媛に縁起の良い寺があり、そこの不動明王様に願掛ければ繁栄するという噂を耳にした横綱から祈願(大相撲最多優勝回数の更新 ※現在は更新している)の依頼を受けました。また、大相撲の愛媛巡業の際には鶴竜関からも依頼を受け、当寺の数珠を授与したところ、翌場所で横綱に昇進したことから、関取衆や幕下以下の力士からも数珠を頼まれるようになりました。以来、大相撲力士達と交流ができ、出会いやご縁に感謝しております。

現在、私は祈禱や葬儀、法事などの傍ら、悩み相談や駆け込み寺の活動を行い、師をみて志した道を少しずつ歩んでおります。繁栄寺を頼って訪れる方々に、微力ながらも全力で向き合うという私のスタイルは、大学生活の貴重な経験の中で培ったものと思います。青春という二度と戻らない時間を愛媛大学で過ごせたことが私の宝です。

(天台宗 寶珠山
繁栄寺 住職)



最近数珠を渡した玉鷲関(白鵬のいとこ)

2004年卒業 矢野 彰大 [総合政策学科司法コース]

僕のような若輩者がこのようなスペースを頂いてしまっているのでしょうか？
とはいえ、何を書いたものなのでしょうか……。同窓会報というのが曲者で、「当時は超モテモテだった」とか嘘を書いても、同級生を中心にばれてしまいますし。まあ、同窓会の中には立派な人だけでなく、こんな人もいたよということで、お話をさせていただきます。



僕は県内の今治市出身で、主に家から近いからという理由で愛媛大学を志望しました。ところが、僕は病的なまでの方向音痴で、自力で大学まで辿り着くには難があります。なので、受験当日は学生委員会というサークルの道案内に助けてもらいました。その学生委員会が、試験当日にこの会報と同じサイズの情報誌を発行していたのですが、そこに見開きの2ページを丸々使ったクロスワードパズルが載ってたんですね。当時パズルを作ったことが無かった僕は、こんなパズルを作りたいと思いました。

入学した僕は、何をするとところなのかよくわからないままに、学生委員会に入ります。先輩の中には学祭実行委員会と間違えて入ってそのまま居着いてしまったという人もいたので、そんなものだと思っていました。

バイトをしながらも、比較的真面目に勉学に励んでいた僕は、後にゼミの担当教官となる竹内康博先生が授業中におっしゃった「在学中に資格を取っておくべき」というアドバイスに従い、宅地建物取引主任者試験に挑戦します。当時は今よりも問題が易しく、1〜2回生の時間のあるうちに勉強して挑めば簡単に合格できるものでした。結果、1回生のうちにかなりの好成績で一発合格を果たした僕は、こう思いました。

「この調子なら、司法試験も行ける！」
なぜそう思ったのか。当時の自分を問い詰めたいです。慢心しては駄目です。

司法試験の勉学に励む僕は、勉学とアルバイトに励むうちに時間が無くなり、1回生終了時に学生委員会を辞めることになりました。結局、パズルを作らないままに終わってしまいました。

就職活動もせず、バイトをしながら司法試験の勉強に明け暮れます。当時はロースクールもまだ無く、卒業後も、アルバイトをしながら臥薪嘗胆の日々。この頃か

ら同窓会報のパズルに参加させていただくようになりました。やがてロースクール制度も始まり、旧司法試験に対する諦めもついたところで、最終的に岡山大学のロースクールに流れ着きます。大学卒業から2年経過していましたが、ロースクールは一発合格でしたので、まあ順調な方だったと思います。

そして、岡山大学でのロースクール生活が始まりました。あちらも本当にいい大学だったのですが、高校時代の僕が近場の愛媛大学を選んだ理由の1つ、身体が弱くて急激な気候の変化に耐えられないという自分の弱点を忘れていました。県外に出ないと実感しにくいですが、愛媛県って凄く住みやすい気候なんですよ。結局、いろいろなことが重なって身体を壊して大学院を辞め、地元に戻ってきました。

元々アニメやゲームが好きだったので、しばらくはひきこもってゲームの日々。身体が完治した頃には貯金も底をつき、20代後半半無職で職歴無しという状態に。どうしてこうなった……。

そんな中でも、同窓会報は励みになりました。皆さん頑張っておられて刺激を受けると共に、パズルにも参加させてもらっていました。人に必要とされるのは嬉しいことです。その後、恩師の言葉を思い出して、大学院で得た知識が残っているうちに行政書士試験に合格したりしました。

そして、フリーター生活が始まります。宅建と行政書士の合格歴があるので、結構な年齢の職歴無しニートでしたが、どんなバイトでも一発合格でした。そして、人件費節約のため、昔なら社員がやっていたことを今はバイトが任されているということも多々あります。大学で学ばせていただいたパソコン、簿記、経済学などの知識もあって、アルバイト生活の中で様々な知識を身に付けることができました。バイト先に多角的な経営をしている企業を選ばせてもらったこともあり、社員の方の指示通りに仕事をさせていただくだけで、経営に必要な非常に多くの情報を得ることができました。

なお、ある程度経営の知識がついたところで、現在は部屋にひきこもっています。知り合いの社長さんと電話で話してお金を貰います。一種の経営コンサルタントですね。役員とかではないです。

まあ、僕の場合は人生設計を適当にした結果の自業自得なんですけど、人生、上手くいかないときもあると思います。どうしても休みたいときは、思い切って休むのもアリだと思います。で、また頑張れるようになってから頑張ると、そのうち上手くいくかもしれません。最後まで読んでくださってありがとうございました。

Graduation Memories

平成26年度 法文学部卒業記念祝賀会(2015.3.24)

卒業生数

- ◆総合政策学科
昼間主270名 夜間主77名 (計347名)
- ◆人文学科
昼間主130名 夜間主70名 (計200名)



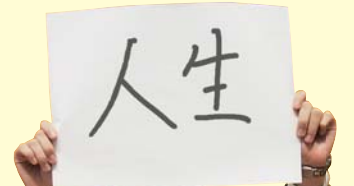
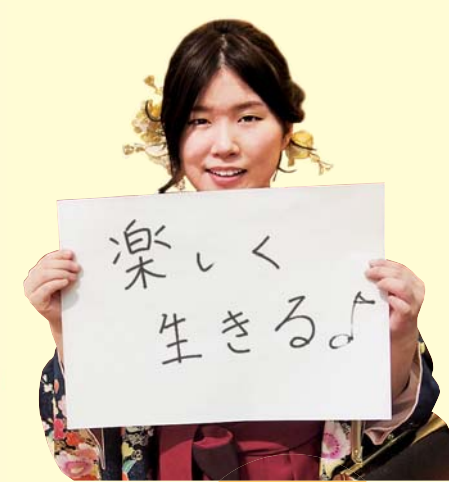
加藤好文学部長あいさつ



森孝明同窓会長あいさつ



卒業生代表あいさつ
総合政策学科 泉裕貴さん



三木元学長から三木奨学賞を受賞した
人文学科 井口琢人さん



総合政策学科



人文学科

関東支部 [東京章光会]



東京章光会の平成27年度第51回定期総会は、梅雨の晴れ間の7月11日(土)に東京、大手町の「サンケイプラザ」にて開催されました。

総会当日は松山より法文学部長の西村勝志教授、同窓会本部の森孝明会長、また、大阪支部、四国支部、広島支部、他学部同窓会東京支部他より多数のご来賓にご出席いただき、約50名の出席者をもって開催することができました。

昨年度の第50回記念総会より出席者は減りましたが、昭和29年卒の大西盛美顧問以下6名の顧問の方全員にご出席いただき、叱咤激励のお言葉を賜ったことは、100周年への第一歩となる今年度の総会には非常に有意義なことでした。

総会では、阿部会長の挨拶の後、平成26年度会務報告、平成27年度活動計画ならびに平成26年度決算報告・監査報告、平成27年度予算案につき、森脇副会長・荒木副会長から説明・報告があり、いずれも満場一致で承認されました。続いて、東京章光会の会員でもある弁護士の前原佳子先生(昭和53年卒)による、「コンプライアンスのための内部通報制度」と題した講演会を開催しました。

懇親会では、西村法文学部長によるご挨拶及び愛媛大学教育組織改革のご説明、理学部同窓会の伊藤智志東京支部長によるご挨拶、森同窓会長による乾杯のご発声の後、懇親に入りました。

松山市東京事務所の高垣主任(平成19年卒)による、ふるさと納税やフェイスブック開始を中心としたPR、章光会会報にも寄稿していただいた高田賀夫氏(平成4年卒)による「葛飾フィルハーモニー管弦楽団」の紹介、農学部同窓会東京支部の本廣慎吾氏による、ご自身が所属されている「劇団民藝」の紹介の後、恒例の福引抽選会をはさみ、太田顧問による閉会の辞をもって総会は盛会の内に幕を閉じました。

100周年を目指して来年度はより多くの会員の方々、幅広い年代の方々に参加していただけるよう、役員、幹事一同努力していきたいと思っております。

東京章光会 事務局 西迫和則

東京章光会連絡先

Tel・Fax 03-5440-9073

(愛媛大学サテライトオフィス東京内)

関西支部 [にきたつ会]



にきたつ会は平成27年7月18日(土)に、大阪市のブリーゼ・プラザにおいて平成27年度定時総会を開催いたしました。

台風一過の猛暑の中、ご来賓には法文学部長・西村勝志先生、同窓会本部・池川孝文副会長、東京章光会・阿部仁会長、四国支部・白井瞳事務局長、広島支部・岡田禎之支部長のご出席を賜り盛大に開催することができました。台風11号の影響で大阪地区のJR各線が運行中止の中、地下鉄や私鉄に振り替えや遠回りをして出席予定の全員の参加を得て本当にありがたく感謝しています。

総会は約20分程度の遅れで開始され、岡本会長の挨拶ののち、平成26年度活動報告、平成27年度活動計画ならびに平成26年度収支計算書及び貸借対照表につき、それぞれ平田副会長・吉富会計幹事・合田会計監事から説明・報告があり、それぞれ満場一致で承認されました。

総会の後、法文学部長・西村勝志先生から「法文学部の組織再編と新学部の誕生」についてご講演を賜りました。愛媛大学の将来を展望し大学がまた法文学部・新学部が、いかに時代の流れに沿って発展し続けるかという大きな命題に向かい、大学の教職員・学生・OBが一致団結して変化に柔軟に対応していくことが必要であるとの認識を、出席者一同共に感じ取る事ができました。

小休憩ののち、懇親会に入りました。澤井副会長の総合司会のもと、ご来賓紹介・ご挨拶ののち、岡田広島支部長の乾杯でにぎやかに懇親会が始まり盛り上がりを見せました。

昨年「万葉ウォーク」をにきたつ会の行事として行ったことの報告が、安藤幹事からあり、今年度も11月15日に「久米寺・檀原神社から環濠集落の今井町」を予定しているとの説明の後、申込書を添付した案内書が配布されました。今回も多数の皆さんの参加をお待ちしています。

楽しく弾んだ懇親会も終わりを迎え、「愛媛大学学歌」「三光寮を歌う」を岡田支部長の音頭のもと全員で合唱し、再会を約してすべての予定を終了しました。皆様方、本当に有り難うございました。

にきたつ会 幹事一同

関西にきたつ会連絡先

支部長 岡本正明 Tel 0742-34-0190

広島支部



支部設立10周年の記念総会を、平成26年10月11日(土)『ホテルグランヴィア広島』にて40名の参加者で開催しました。

当日は、大学から加藤法文学部長、同窓会本部から池川副会長、東京章光会から森脇事務局長、大阪にきたつ会から平田副会長、四国支部から白井事務局長、そして昨年度退官された本田先生が駆けつけてくださり、また、加藤好文学部長と米神健氏(昭和45年卒)にご講演いただきました。

まず、加藤学部長からは、『法文学部のミッション(使命)』という題目で、大学間競争激化の中で、愛媛大学も有能な人材育成に向けて様々な取り組みが行われていることのお話を伺いました。

次に、米神氏からは、『アストラムラインについて』という題目で、広島にアストラムラインが出来た経緯やその後の苦労話、裏話などを伺うことができました。

その後の懇親会においては、松室龍彦氏(昭和32年卒)による乾杯の後、多くの方々からご挨拶をいただいたり、篠笛の演奏を楽しんだり、今回ご都合で参加できなかった方々からのメッセージを配布させていただいたりして、とても楽しい会となりました。

最後の締めくくりでは、応援団出身の道田祥隆氏(昭和60年卒)のエールに続いて、『愛媛大学学歌』、逍遙歌『若葉の古城』『三光寮を歌う』を声高らかに歌い上げ、名残を惜しみつつ、来年もまたお会いしようとの散会となりました。

世代を超えた交流を通じて、より同窓会の意義を高めていただいたように思います。

平成27年度 広島支部総会ご案内

日 時：平成27年10月31日(土) 11時半～

場 所：広島ガーデンパレス(広島駅北口より徒歩5分)

昼食会を兼ねて開催する予定です。広島支部では法文学部だけでなく、工学部や農学部・教育学部などの出身者も参加されていますので、みなさまお互いあわせのうえ多数のご参加をお待ちしています。

広島支部事務局連絡先

難波携帯 090-7777-6671 または

あさがお司法書士事務所内 品川瑞

Tel / Fax 082-208-5886

四国支部



平成26年11月14日(金) 18時より、いつものピュアフル松山(松山市)で第9回総会を開催しました。総会の前に法文学部長の加藤好文先生による「法文学部の再編と使命」の記念講演会が行われました。

また、平成27年4月18日(土)に松山市中心部のすし丸本店においてお花見会を開催しました。

第10回 四国支部総会のご案内

本年度は本部の3年に一度の総会開催年のため、例年のような単独の総会を開催しません。11月28日(土)の本部総会に是非ご参加ください。本部総会の前に四国支部総会を開催予定です。

日 時：平成27年11月28日(土) 15時～

場 所：愛媛大学法文学部大会議室(本館8F)

第6回 四国支部お花見のご案内

来年は桜の季節に開催しようと提案があり、会場に桜を飾り開催予定です。

日 時：平成28年4月2日(土) 14時～

(宴会は14時より2時間を予定)

場 所：すし丸本店 Tel 089-941-0447

(松山市二番町2-3-2 大街道二浪証券すぐ)

※副支部長の中島さんが役員をされています。

四国支部事務局連絡先

〒790-0047 松山市余戸南1-6-26(玉井方)

Tel 089-973-5048

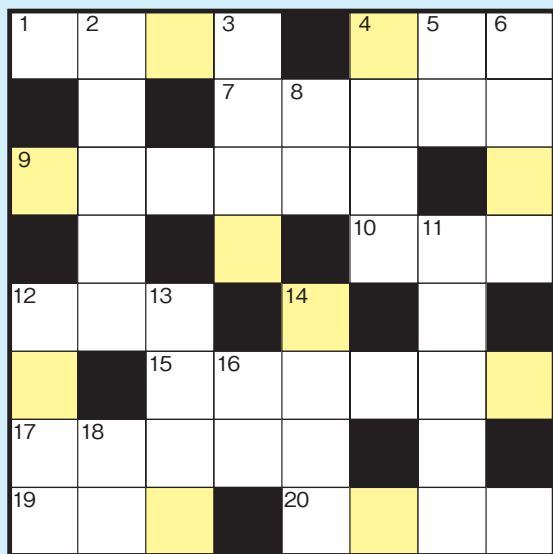
担当：副支部長 玉井周平 携帯 090-8973-7650

E-Mail : tousui78@yahoo.co.jp



※平成27年3月11日(水)、四国支部副支部長(本部理事)の新谷正信さんが逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

クロスワードの色がついた部分の文字を並べ替え、愛媛大学にできた新しい施設のうちの一つの名前を教えてください。



(出題：H16卒・矢野彰大氏)

- タテのかぎ
- ① 内野+外野
 - ② 自分の車
 - ③ クッキング
 - ④ 度量の大きさ。〇〇壮大
 - ⑤ フランス革命家
 - ⑥ グラフィックインターチェン
 - ⑦ ジョー・マック
 - ⑧ 高温で金属を溶かす炉
 - ⑨ オムレツ風焼きそば
 - ⑩ 地面の上の敷物。「こしる」
 - ⑪ とも
 - ⑫ 短い時間で一気に積もる雪
 - ⑬ 県のリーダー
 - ⑭ 五島列島最北。〇〇島

●ヨコのかぎ

- ① 香車が一步前進し、王将がその下へ
- ④ フォースフィールド
- ⑦ 優れた男
- ⑨ 文化勲章も受賞した耽美派作家
- ⑩ 武力に優れた三国志の武将
- ⑫ 八つ時に食べたのが語源
- ⑮ 『犬神家の一族』などを手がけた映画監督
- ⑰ 英名『タイワンアカシア』
- ⑲ 秘密を公表
- ⑳ 地中海の共和国。首都はニコシア

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2015年12月15日**までに本会へお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 20人

第18号 パズルの答え

正解：イタミジユウゾウ



【解答】

前回パズル当選者【敬称略】

解答者442人中、正解者441人

【敬称略】

図書カード1,000円分 (20人)

新江 禎(S30)、妹尾 穎一(S32)、佐藤 興治(S45)、田中 憲治(S49)
市枝 一代(S51)、藤岡 達夫(S56)、安原 富江(S63)、松崎久美子(H2)
長尾 直子(H6)、荻 博陸(H7)、清水 真希(H9)、長野 善行(H11)
山川 裕子(H14)、河本裕美子(H15)、川人真理子(H16)、根ヶ山理恵(H18)
片岡麻衣子(H19)、神野 泰治(H21)、三谷 夏子(H24)、阿部 充(H26)

主なリクエスト

- 卒業生について（企業内でのインタビュー記事、卒業生の情報紹介を多くしてほしい）
- 現職教員について（各教授のゼミ風景、先生方の活動など載せてほしい）
- 学生のサークル紹介
- どのように地域貢献しているのかが知りたい
- 大学の四季を感じる風景を写真で載せてほしい
- 大学周辺のお勧めスポットを教えてください
- 今の松山がどうなっているのかの情報も知りたい
- 最新の卒業生の就職先について知りたい
- 可能なら会報発行回数を増やしてほしい
- 字を大きくしてほしい
- 同窓会報らしいソフトな内容も入れてほしい

感想

お褒めの言葉、お礼の言葉、励ましの言葉をたくさんいただきました。

- クロスワードが楽しめた、難しかった、勉強になった等の複数の感想が寄せられました。
- 論文・エッセイに役立った、感動した等の感想も多かったです。
- ハナちゃんの安否を気遣う意見も多かったです。
- 会報のコスト削減のためにweb化も検討すべきではないか。
- お世話になった先生方の近況を知ることができて嬉しいです。
- 卒業生の方や先生方のことが知れて楽しいです。
- 愛大の今の状況を知ることのできる大切な一冊となっています。
- 大学改革にある厳しい現実が再認識され良かった。
- 支部だよりにより面白味が足りないです。

パズル等の解答にいただいた個人情報は、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は「愛媛大学学部再編」(183人)、2位は「論文・エッセイ」(160人)、3位は「研究室紹介」(83人)、4位は「退職された教員の方々」(72人)、5位は「卒業生から」(50人)。以下、EHIME UNIVERSITY NEWS(34)、松本副学長インタビュー、加藤学部長インタビュー(共に29)、支部だより(20)、提供講座・寄付科目(19)、パズル(18)、卒業記念祝賀会(16)、ハナちゃん情報(15)、表紙(14)など。

【編集後記】

- 編集委員は今回を以て3年の任期を退任しますが、大学改革の中で法文学部同窓会の名称が土壇場で存続出来て本当に良かったですね。記事に不都合があったかとは思いますが、ご愛読いただき有り難うございました。(池川)
- もうすぐ3人目の孫が1歳になります。11年ぶりの孫で、愛らしくて仕方ありません。52歳で若きじいじになった時と比べて、やっと「適齢期」を迎えました。おかげさまで公私ともに充実した毎日を送っています。(久保)
- 今年の春は母校のセンバツ甲子園出場でおおいに盛り上がり、たくさんの先輩・後輩とつながりを持ちました。夏も良いところまで進んだのですが、残念ながら春夏連続出場はかないませんでした。それでも、同じ学び舎で学んだ仲間との絆をひしひしと感じ、大切な思い出となりました。すばらしい後輩たちに感謝です。(野寄)
- この春、娘が法文学部人文学科に無事入学しました。将来の編集委員候補になるかも……と密かに期待しています。(小林)
- 大学在学時には当たり前のようにいたハナちゃん。仲間内での呼び名は何故か「キヨ」でした。私達が「キヨ〜」と呼んでも何とも無反応。存在感がありました。キヨ(ハナちゃん)の冥福を祈りたいと思います。(後藤)
- 3年振りの本部総会が11/28(土)に開催されます。2期6年務めた事務局長も今年で終わりです。私の最後の勇姿を見に、ぜひ総会に来て下さい。(鳥生)
- 「最古にして、最先端。」今年も道後温泉が元氣です。アーティスト蛸川実花さんの作品が道後地区で展開中です。新たな道後の顔をぜひ。(戒能)

発行 2015年9月
発行者 愛媛大学法文学部同窓会
編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376 FAX 089-917-6476
印刷 アマノ印刷